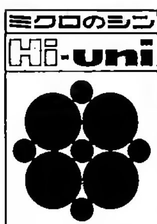
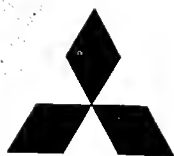
ハイ-ユニ

黒く・濃く・きれいに書ける理想のシン

そのヒミツは
理想の粒度配合



9H 6B・17硬度
1ダース1200円 1本100円



三菱鉛筆

三菱鉛筆株式会社

ハンドボール「第49号目次」

昭和 42 年12月 号

私のことば 「偶感一束」…馬場太郎（1）
第22回国民体育大会……………………（2）
評議員会・理事会開かる………………(11)
全国理事長会議も開く…………………(11)
全日本実業団25分ハーフで実施………(12)
バウマンＩＨＦ会長・渡辺副会長会談……………………(13)
日本ハンドボール界の課題…辻一義…(15)
日本ハンドボール協会創始期の思い出（1)…………松本良三…(16)
全日本選抜大会展望……………………(19)
全日本学生王座…………………………(20)
学連秋季リーグ戦………………………(21)
球界パトロール…………………………(24)
今夏のヨーロッパ球界から……………(27)
フランスの技術研究（6）………………(28)
明日への提言……………………………(30)
各地の記録………………………………(31)
編集後記…………………………………(32)

表紙写真　全日本学生王座　立教大一関西大戦（11月23日　駒沢体育館）より、北村ポストからシュートする直前

1月号は休刊とし、2月増大号を2月初めに発行します。

私のことば

〝偶感一束〟

日本協会副会長

馬場太郎



北摂、箕面の満山黄ばみ逝く秋最後の麗色を呈している今日勤労感謝の日の夜半東京で行われた東西学生王座決定の試合の結果を案じつつ、又明日は早朝・山口県下松市で開催される西日本男子ハンドボール選手権大会に出席のため出発を考えながら、烏兎匆匆この一ケ年のことと、将来の希望を申し述べたい。

第一に昨年末一行20名が第6回世界男子7人制ハンドボール選手権に出場した事はいささか旧聞に属するが、既に報告書で御覧頂いた事と思うが、筆者が申したい事は「世界の壁が」如何に固いかとの一語に尽きることである。今更何を言うかとの反論もあろう。大会参加の各役員選手が帰国後「日本球界にどれ程の利益をもたらしたか」との詰問も聞かぬでもないが暫く御猶予願いたい。

第二に異論もあろうが先ず先駆者となる大学の強化を力説したい。大学の陣営を強化するにはそのヒンターランドである高校選手の育成に繋がるが、その基盤をなす高校中学校に大量の指導者の必要さを痛感するのは自明の理であるとすれば、高層ビル建築には地盤固めが必要であるが如く地方協会普及委員各位が倍旧の努力と熱意をもって協会の30年の歴史がなし得なかった世界制覇への基礎固めのため逸材を掘り出して貰いたい。「伯楽も名馬も」関西球界の不振を歎く。最近の関西球界の不振はどうしたものか、その原因は奈辺にあるのであろうか、特に学生陣の低調は眼を被うものがある。

学連の試合運営・審判の配置等再考の要があろう。関東学連の対抗馬としては余りにも貧弱である。関西学生の奮起は日本球界に熱気の盛り上りに多大の貢献度があることも自覚されたい。先哲が真理の探求のためには、広大な気宇、偉大な信念を以って成し遂げたが如くアクセントのある、スピードとパンチのきく青年のエネルギーを十二分に発散して欲しい。

聞くところによれば男子の部で追手門大学、近畿大及び京都産業大学、女子部では大阪薬大、大阪体育大学、大阪教育大学及び武庫川大学が夫々発足して四月には連盟加入の意志ありと言われているが、うまく育てて関西学連の発展を祈りたい。

我が国サッカーが東京オリンピックを契機に上昇気流に乗りバレーがオリンピックに女子優勝、男子の好成績に刺戟され、今日の隆盛を見たるが如くわがハンドボール界もおそまきながら七二年のオリンピックをステップとしてのここ一両年のアプローチの努力の結果が将来の繁栄への明暗がかかっているのではなかろうか。

田村紡堂々の3連勝（一般女子）

〜第22回国体・埼玉県浦和市〜

高校男子で明星2年連続の二冠

第22回国民体育大会ハンドボール競技は10月23日から5日間、埼玉県浦和市立高グランドと同体育館に初出場の沖縄代表小禄高（高校女子）を含む5部門75チームが参加して熱戦をくりひろげた。

連日多くの観衆がコートサイドを埋め盛んな声援のうちに大会は進められたが、一般男子は全日本チャンピオン大崎電気（埼玉）がベテランチームらしい試合運びで他の挑戦を退け優勝。埼玉代表として5連勝、同チームとして7連勝という偉業を遂げた。

トップチームを集めた一般女子は、期待通りの激戦を展開したが田村紡（三重）が秀れた攻撃力で全日本総合につづき今シーズン二つ目の全国タイトルを獲得、3連勝した。

高校男子は、明星（東京）が〝超高校級〟という定評通りの力を示して快勝。2年連続ダブル・クラウンに輝いた。高校女子は接戦を切りぬけた栃木女と花巻南（岩手）が初優勝を争ったが栃木女が制勝、花巻南のダブル・クラウンを阻んだ。

教員は常勝大阪イーグルスが今年も堅実な試合ぶりを見せ、決勝で埼玉教員に制勝。2連勝（4回目）した。

府県別得点争いは、天皇杯（男女総合）、皇后杯（女子）とも地元・埼玉県が首位となり初の栄冠を得た。両杯獲得は、第18回大会の山口県以来。

大崎電気、ついに7連勝遂ぐ

一般男子（32チーム参加）

▽1回戦

清商ク（静岡）20（11—4、9—4）8 東北学院OB（宮城）

金商ク（石川）25（14—5、11—6）11 カスカワク（山形）

中京ク（愛知）50（26—4、24—2）6 滋賀ウルフ・ク

岡野愛球会（福岡）38（18—6、20—6）12 青商ク（青森）

葵ク（京都）29（15—5、14—10）15 鏑川ク（群馬）

高松一高OB（香川）24（10—11、14—5）16 原子力研究所（茨城）

三菱レ大竹（広島）20（8—11、9—6、1—0、2—1）18 室蘭ク（北海道）

常盤工業（岐阜）23（14—5、9—6）11 A・O・K（栃木）

大分ク（大分）27（12—5、15—7）12 秋田市農協（秋田）

熊本ドンキー・ク 23（11—12、12—9）21 三国丘ク（大阪）

三景（東京）27（11—10、16—11）21 富士レジン（兵庫）

塩山ク（山梨）30（11—11、19—10）21 北農ク（長野）

奈良ク（奈良）22（7—6、6—7、0—2、3—1、3—0、3—2）18 徳山ク（山口）

全神奈川（神奈川）17（6—9、7—4、0—1、2—1、1—1、1—0）16 氷見ク（富山）

○…三菱レ大竹—室蘭ク。名門サンダー倶を予選で破った初出場の室蘭クは元気いっぱいの試合ぶりだったが、三菱は後半一気に追いこみ、延長後もその勢いで連続3点。辛勝した。

熊本ドンキーク—三国丘ク。後半3分10回目の同点（13—13）となったあと熊本は毛利（明大出）を中心にチャンスを活かし21—16とリードした。粘る三国丘クは飯端（関学出、世界選手権後全国大会初出場）、花野（慶大出）らのゲットで1点差にまでせまったが熊本は27、29分に加点、危うい勝ち星をあげた。

三景—富士レジン。富士は後半いちどは逆転したものの三景の堅実な試合ぶりに再び主導権を奪われ敗れた。

奈良ク—徳山ク。死力をつくすという形容詞がぴったりの一戦。勝負を決めたのは第2延長前半鳥井（同大出）樽井（立命館大出）保田（大阪大出）の連続ゲットだったが安沢（徳山高出）浜岡（明大出）両ベテランを中心とした徳山クの粘りはすばらしいものだった。

全神奈川—氷見ク。期待どおりの熱戦となり、第2延長後半2分安達兄（立大出）が決勝シュートを全神奈川が前年4位の氷見クを破った。

氷見クは立ちあがり1—5とされ午ら後半15分には11—10と逆転

年次両杯優勝県

〜ハンドボール競技〜

		天皇杯	皇后杯
第3回	（昭23）	大阪	○大阪
第4回		大阪	岡山
第5回		大阪	岡山・大阪
第6回		岡山	岡山
第7回		愛知	愛知
第8回		大阪・北海道	北海道
第9回		大阪	大阪
第10回		愛知	福岡
第11回		愛知	福岡
第12回		愛知	愛知
第13回		大阪	茨城
第14回		大阪	宮城・福岡
第15回		◎愛知	○愛知
第16回		東京	茨城
第17回		愛知	○熊本
第18回		山口	山口
第19回		新潟	東京・静岡
第20回		岐阜	熊本
第21回		大阪	熊本
第22回		埼玉	埼玉

（両杯制定は昭和23年度の第3回大会から）

◎印は全部門優勝。この記録は昭22大阪も遂げている。

○印は女子2部門優勝。

するなど持ち前の粘りを見せたが惜しくも勝運をつかめなかった。

この両者に〝国体新記録〟の50点をマークした中京ク（愛知）を加えた3チームがクラブ界の最強集団といえる。

▽2回戦

大崎電気（埼玉）23（8－3、15－4）7 清商ク

塩山ク 25（11－8、14－8）16 岡野愛球会

全神奈川 16（6－8、9－7、0－0、1－0）15 中京ク

住友化学菊本（愛媛）26（13－9、13－12）21 奈良ク

常盤工業 14（5－4、9－4）8 三菱レイヨン大竹

三景 25（11－10、14－9）19 金商ク

熊本ドンキー・ク 19（8－8、11－8）16 高松一高OB

葵ク 20（13－4、7－11）15 大分ク

○…全神奈川―中京ク。全神奈川は安達兄、池田（芝工大出）のリードでセットからチャンスをいかし、中京クは去年まで中京大GKとして活躍した左腕・牧の活躍で、互いにゆずらぬ熱戦となった。しかし延長後半1分、全神奈川は永嶋（宇都宮工出）のシュートがはね返るところをすかさず林（下関工出）が拾って貴重なゲット。中京クの猛反撃をかわし、前日につづき苦しい勝ち星をあげた。

熊本ドンキー・ク―高松一高OB。一進一退から大高（甲南大出）石井（同大出）、葛西（関学出）ら関西学生界OBをもつ高松が後半15分には13－11とリードしたが、体力にまさる熊本は江口（熊市商出）の7MT2本を含む3ゲットで逆転、さらに3点を加え17－13とし押し切った。

住友化学、三景の実業団勢はクラブの闘志に追いこまれる場面もあったが順当に勝ち進んだ。奈良ク・鳥井、金商ク・川原（金沢商出）の好技が光った。

実業団同士・常盤工業―三菱レ大竹は前半はテンポの遅い展開だったが、後半になると常盤の速攻が調子を出し後半20分10－5。三菱は後半24分にやっと1点を加える不調ではこの敗戦もいたしかたなかった。

この結果、ベストエイトの内訳は、3年つづけてクラブ4、実業団4となった。

新進三景、ベスト4へ

全神奈川も勝ち進む

▽準々決勝

三景 17（8－6、9－6）12 常盤工業

○…8－6とリードされた常盤は後半開始直後タイに追いついた。しかし三景は8分榊（熊本市商出）、14分尾形（立大出、世界選手権代表GK）15分竹村（大阪経大出）で11－8。粘る常盤も巧者・吉金（芝浦工大出、世界選手権代表）の連続得点で再び追いあげたが、それを突きはなすように三景は尾形、榊がゴールを決めて初出場で堂々ベスト・フヲァへ進出を決めた。常盤は攻撃面の粘りは出て来たが、相変らず守りに波があるのは惜しい（杉山）

得	【常盤】		【三景】	得
0	渡辺	GK	小野	0
0	森	GK		
0	中島	FP	竹村	3
5	高橋	FP	尾形	8
0	西洞	FP	江名	3
0	桃井	FP	榊	2
5	吉金	FP	伊藤	1
2	鳥村	FP	外間	0
0	大野	FP	高橋	0
0	佐藤	FP		
0	伊藤	FP		
		主審（永山）		
12	（0）	7MT	（1）	17

全神奈川 14（10－5、4－7）12 葵ク

得	【葵】		【神奈】	得
0	兼	GK	大柴	0
0	中尾	GK	西村	0
1	市橋	FP	安達兄	2
9	竹口	FP	杉山	3
0	安達	FP	米沢	1
1	木村	FP	吉川	1
0	西口	FP	林	2
1	出野	FP	安達弟	1
0	渡辺	FP	小林	0
0	福井	FP	池田	4
		FP	永島	0
		主審（宮本）		
12	（0）	7MT	（1）	14

○…前半11分5－1、前半10－5と順調に得点を重ねた全神奈川が、そのまま勝負を決めるかに見えた。しかし葵クは後半竹口（京大出）の大活躍で21分11－11に追いつく粘りを見せた。この大会キワどい勝負をつづけている全神奈川は22、24分に安達兄の連続ゴールで13－11。28分安達弟（慶大出）がダメ押しの得点をあげて辛くも勝った。徹底的にマークされていた安達兄が最後に勝負強いどころを見せたのはさすがだが、それにしても葵クの健斗はみごとなものであった（杉山）

大崎電気 27（7－6、20－3）9 熊本ドンキー・ク

得	【熊本】		【大崎】	得
0	浜	GK	福本	0
0	広瀬	GK	下里	0
1	柿塚	FP	北村	1
0	毛利	FP	金田	4
0	北川	FP	井上	5
1	佐々	FP	西村	2
1	松岡	FP	近藤	6
2	横山	FP	竹野	4
2	上妻	FP	片山	2
2	江口	FP	加藤	3
		主審（辻）		
9	（0）	7MT	（2）	27

○…前半は互角というよりもむしろ熊本のペース。しかしベテランを揃えた大崎は試合の主導権を握られながらもジリジリと追いあげ、ひとたび逆転に成功してからはまったく一方的な試合ぶりで、熊本のミスや、パスプレーをカットしてはみごとな速攻を連続させ、最後は大差となった。健斗した熊本のファイトを賞したい（辻）

住友化学菊本 14（9－8、5－5）13 塩山ク

○…たえず先手をとられていた塩山クは後半7分、9分雨宮（塩山高出）の好技で12－11と逆転。12分住化・白石（新居浜工出）にタイとされたが、15分鮎川（塩山高出）がインターセプトから一気に持ちこんで再度リードした。

住化はここで得点力のある北山（坂出商出）に代えてゲームメーカー上田（下松工出）を送る背水の陣を布いた。その上田が、20分相手の7MTを誘ってエース加藤（新居浜工出）が決め13－13。21分、7MT（加藤）からやっと勝ちこし点をあげペースをとり戻した。

住化はいつになく試合運びが粗雑で、後半は疲れも見えた。クラブの意気を示した塩山クの健斗を大いに賞したい一戦だった。（杉山）

得	【塩山】		【住友】	得
0	内藤	GK	季原	0
0	小池	GK	成行	0
3	原田	FP	神代	0
6	雨宮	FP	上田	1
1	鮎川	FP	公文	0
0	石場	FP	松井	0
1	金子	FP	長嶺	2
1	宮原	FP	加藤	5
1	平塚	FP	北山	0
0	中村	FP	落海	3
0	田中	FP	白石	3
		主審（嶋田）		
13	（3）	7MT	（2）	14

▽準決勝

全神奈川 17（8－6、9－7）13 住友化学菊本

得	【住友】		【神奈】	得
0	季原	GK	大柴	0
		GK	西村	0
1	上田	FP	安達兄	4
0	公文	FP	杉山	1
1	松井	FP	米沢	3
1	長嶺	FP	吉川	0
5	加藤	FP	林	4
4	北山	FP	安達弟	0
0	落海	FP	小林	0
1	白石	FP	池田	5
0	神代	FP	永島	0
		主審（岡前）		
13	（3）	7MT	（2）	17

○…住化は前半、全神奈川・池

田の走りにまどわされて、ポストのマークの甘さをつかれリードを許した。

後半加藤、北山を中心に住化ははげしく追いあげたが、ポストプレーをつぶしの早い神奈川に封じられ、ロングシュートにたよっては逆に相手にボールを与えたため試合の主導権を奪うにはいたらなかった。ポストに対する守りの巧拙が勝負を分けたといえる。全神奈川はこの日も楽な試合ではなかったが、全員が勝負どころをわきまえた豊かなキャリアを存分に発揮、第7回（昭27・福島）以来15年ぶりに決勝へ進んだ（岡前）

大崎電気 19（12—3、7—11）14 三景

	【大崎】	得	【三景】	得
GK	福本	0	小野	0
GK	下里	0		
FP	北村	3	竹村	4
FP	金田	1	尾形	2
FP	井上	3	江名	4
FP	西村	5	榊	2
FP	近藤	6	伊藤	1
FP	竹野	0	外間	1
FP	片山	1	高橋	0
FP	加藤	0		

（主審 嶋田）

14（0）7MT（2）19

○…三景の食下りが期待されたが前半20分9—2と大差がついてしまった。しかし後半大崎が攻守に気を抜いたスキをついて竹村、江名（立大出）が活躍、後半25分には4点差につめたのはみごとな粘りといえよう。

勝負としては後半18分18—9となったところでついたがその後に見せた気力は、はるかに三景に好感がもて、大崎のプレーは全日本の覇者としては一考を要しよう。（嶋田）

▽3位決定戦

三景 21（9—6、12—8）14 住友化学菊本

○…すばやく2点を先取した住化もその後はまったくカラ廻り。17分間無得点という凡攻だった。

三景は立ち上がりこそスピードを欠いたが次第に左腕4人を並べたユニークな攻撃でチャンスを活かし、初出場でみごとに3位となる快勝だった（永山）

▽決勝

大崎電気 17（8—5、9—5）10 全神奈川

	【大崎】	得	【神奈】	得
GK	福本	0	大柴	0
GK	下里	0	西村	0
FP	北村	2	安達兄	2
FP	金田	1	杉山	2
FP	井上	3	米沢	1
FP	西村	2	吉川	0
FP	近藤	4	林	1
FP	竹野	5	安達弟	1
FP	片山	0	小林	0
FP	加藤	0	池田	3
FP	田口	0	永島	0

（主審 岡前）

10（0）7MT（3）17

○…立ちあがり、大崎は竹野（日体大出）井上（新居浜工出）の連続シュートで早くも3—0。これは何れも全神奈川の無理なシュートをストップしてからの速攻であげたもので、全神奈川としては、もうすこしじっくり攻めるべきではなかったか。このあと3点を返して13分には一応タイとなったのだからなおさらである。

後半を前に〃3点差〃は全神奈川のチーム力からして、そう負担ではなかったハズなのだが、後半開始早々またしても大崎の速攻に4点を奪われ6分12—5と開いては逆転の望みも消えたにひとしかった。

大崎は、この大会ではかならずしも好調な出来とは思えなかったが、さすがに決勝戦では、全員がシャープな動きを見せ、全日本の王者らしい多彩な攻防を示した。

全神奈川がリードすればという期待が空しかっただけに決勝戦としては盛りあがりが足らず、観衆を湧かせる場面の少かったのは惜しまれる（岡前）

大洋の宿願、今年も成らず

一般女子（12チーム）

▽1回戦（4試合）

井原高OG（岡山）10（5—3、3—5…0—1、1—0…0—1、1—0）10 高岡女高OG（富山）

抽せんの結果井原高OGの勝ち

東京重機（東京）11（3—1、8—2）3 全和洋（秋田）

三菱鉛筆（神奈川）18（8—2、10—2）4 室蘭ク（北海道）

全大阪（大阪）13（6—1、7—5）6 愛媛ク（愛媛）

○…井原—高岡のOG同士による一戦はたがいに持ち味を活かした好試合だった。走力にまさる井原はゴール前のこぼれ球を拾っては得点に結びつけ僅差で押し切るかに見えたが、高岡は終了寸前、原田の鮮やかなロングシュートで8—8とし延長戦にもつれこんだ。

延長後はまったく互角で決定打の生まれぬうちに第2延長を終わり、抽せんの結果、井原に幸運が舞いこんだ。

注目の全和洋は、前半、東京重機の乱調をついて食い下ったが、後半になると練習量の差があらわれ、相手の速攻を許して勝負を決められてしまった。

三菱鉛筆、全大阪は順当勝ち。

▽準々決勝

愛知紡（愛知）21（10—2、11—2）4 井原OG高

	【愛紡】	得	【井原】	得
GK	尾崎	0	山本	0
GK	山下	0	早川	0
FP	小林	4	猪木	0
FP	前田	3	鳥越	0
FP	五十嵐	2	岡本	2
FP	小野	3	池田	0
FP	関口	8	佐藤	0
FP	黒木	0	高村	0
FP	藤池	1	松田	2
FP			多賀	0
FP			恒本	0

（主審 佐々木）

4（0）7MT（4）21

○…練習量充分の愛知紡は立ちあがりからスピーディな動きで井原陣をおそい、小林、関口の好リードからチャンスをつかんでは得点。試合の主導権を握った。

井原は岡本（東女体大主将）を中心に健斗したが、実業団とわたりあうだけの体力がなく敗退した。（佐々木）

田村紡（三重）8（3—4、5—1）5 三菱鉛筆

	【田村】	得	【三菱】	得
GK	渡辺美	0	吉田	0
GK			本庄	0
FP	種村	1	三井田	1
FP	渡辺好	1	鈴木	1
FP	水谷	1	佐々木房	0
FP	小林	3	落合	0
FP	清水	1	江川	1
FP	長谷川	1	蓮見	2
FP	甲村	0	佐々木洋	0
FP	吉開	0	遠藤	0
FP	渡辺信	0	阿部	0

（主審 嶋田）

5（1）7MT（1）8

○…前半は完全に三菱のペース。6分に3—0とリードした時は波乱を感じさせたのだが、田村紡はしだいに地力を発揮、19分3—3と追いついた。しかし三菱もその直後蓮見のゲットで1点差をつけて後半を迎えた。気をとりなおした田村紡は45秒種村で4—4。そのあと清水、小林、水谷がチャンスをうまく活かし13分7—4と逆に優位となりそのまま押し切った。三菱はスタートの好調を持続できなかったことが敗因といえるが、先制をうけながらあわてない田村紡の自信にあふれた攻守は一枚上の感じだった。（杉山）

大崎電気（埼玉）17（7—3 10—3）6 全大阪

得	【大崎】		【大阪】	得
0	川崎	GK	馬淵	0
0	山田	GK	山本	0
4	加藤	FP	田井	1
3	早川	FP	北村	2
3	鈴木	FP	梶原	0
1	小林	FP	福田	1
0	栗林	FP	中野	0
4	木幡	FP	中務	0
2	山崎	FP	魚住	0
0	神藤	FP	団	2
0	久保田	FP	木村	0

（主審 佐々木）

6（2）7MT（2）17

○…大阪の健斗で熱の入った一戦になった。しかし、一たんペースにのると大崎はさすがに強い。すべてのプレーに余裕が見られ、相手のミスに乗じた速攻や、ミドルシュートなどうまみのある攻撃で得点をあげた。

秀れた個人技をつみ重ねた大阪の得点はどうしても散発的で、徹底したチームプレーを見せる大崎が相手では、この敗戦もいたしかたなかった（佐々木）

大洋デパート（熊本）12（5—4 7—2）6 東京重機

得	【大洋】		【重機】	得
0	小原	GK	高野	0
0	安部	GK	川本	0
5	新保	FP	山本タ	1
1	垂水	FP	畑岡	0
1	渡辺	FP	飯田	1
2	射場	FP	滝口	0
2	今村	FP	金井	0
1	枝尾	FP	島田	0
0	三宅	FP	山本幸	4
0	米	FP	長谷川	0
0	田中	FP	荒井	0

（主審 嶋田）

6（1）7MT（1）12

○…両者ともに激しいプレーを見せ、特に東京重機はセットプレーからの山本（幸）のシュートがよく決まり好調な出来であった。

しかし大洋も新保を中心としたゴール前の多彩な動きから得点機をつかんでゆずらなかった。

後半、1点のリードに大洋が余裕を得たのに引きかえ、重機はあせりからロングシュートを放っては、逆に大洋の速攻を誘い傷口をひろげたのは拙かった。大洋の順当勝ちだが、重機の粘りのあるプレーには好感がもてた（嶋田）

▽準決勝

田村紡 17（7—3 10—4）7 愛知紡

得	【田村】		【愛知】	得
0	渡辺美	GK	尾崎	0
0	坂上	GK	山下	0
5	種村	FP	小林	0
2	渡辺好	FP	前田	2
4	水谷	FP	五十嵐	1
1	小林	FP	小野	0
4	清水	FP	関口	2
1	長谷川	FP	黒木	1
0	甲村	FP	藤池	1
0	吉開	FP		
0	渡辺信	FP		

（主審 佐野）

7（2）7MT（0）17

○…田村紡は9分、10分、14分と持ち前のクイックプレーから連続得点して5—1。愛知紡も関口の7MTで反撃したものの、18分に失点して4点差がつき前半を終った。

後半、田村紡は、愛知紡ディフェンスが中央に集りすぎるスキを水谷、種村、長谷川がサイドから好シュート、5分には11—3とし、その後も巧みなポストプレーでゴールを決めて快勝した。

愛知紡はディフェンスがまったく無気力。相手の攻撃になすがままだったが、東海選手権（9月）で田村紡を破り、さらに西ドイツを降した自信がかえってわざわいとなって現れたのならこの敗戦を〝良薬〟として奮起して欲しい。（杉山）

大洋デパート 11（5—4 6—1）5 大崎電気

得	【大洋】		【大崎】	得
0	小原	GK	川崎	0
0	安部	GK		
1	新保	FP	加藤	1
4	垂水	FP	早川	2
4	渡辺	FP	鈴木	0
0	射場	FP	小林	1
1	今村	FP	栗原	0
1	枝尾	FP	木幡	0
0	三宅	FP	山崎	1
0	米	FP	神藤	0
0	田中	FP	久保田	0

（主審 岡前）

5（1）7MT（1）11

○…大洋、会心の勝利だった。

前半こそ一進一退をつづけていたが、後半は、打つ手々々がすべて、うまくいき大崎につけいるスキを与えなかつた。

なかでも後半8分、新保のバックハンドパスをうけて垂水が得点したプレーと、9分再び新保の好配球から枝尾が決めたプレーは連けいの妙あふれるものだった。

大洋のフォーメーションプレーの好調に対し、大崎は早川、鈴木のコンビ以外に攻撃の糸口がなくこの二人をマークされると、どうにも動けないありさまだった。シーズン前から心配されていた〝若さ〟の不安が出たとでもいおうか。全日本選抜、全日本実業団での復調を期待しておきたい（杉山）

▽3位決定戦

大崎電気 10（5—2 5—5）7 愛知紡

○…前半15分まで2—2と互角に進んだが、大崎はそのあと5分間に鈴木、早川で3点を加え優位になった。結果的にはこの3点が〝勝負点〟になった。

大崎の勝因は積極的なディフェンスのパスカットにあったが、愛知紡のシュートが平凡で、簡単にGK川崎が止め、一気の速攻となっていたことも見逃せない（藤田）

▽決勝

田村紡 9（4—2 5—1）3 大洋デパート

○…両者の国体決勝での顔合せは3年連続。先制点は40秒田村紡（小林）があげたが、大洋は5分新保10分垂水のゲットでリード、ともに気力充分のスタートだった。

田村紡は12分7MT（小林）で追いついたあと14分渡辺好、19分40秒水谷が得点、優位に立った。

得	【田村】		【大洋】	得
0	渡辺美	GK	小原	0
0	坂上	GK	安部	0
1	種村	FP	新保	1
1	渡辺好	FP	垂水	1
1	水谷	FP	渡辺	1
4	小林	FP	射場	0
2	清水	FP	今村	0
0	長谷川	FP	枝尾	0
0	甲村	FP	三宅	0
0	吉開	FP	米	0
0	渡辺信	FP	田中	0

（主審　）

3（0）7MT（1）9

大洋もよくチャンスをつかみながらシュートが決まらぬ不運と7分の7MTを田村紡・GK渡辺美に阻まれたのが痛かった。この7MTが決まっていれば、かなり余裕を持てたハズだ。

後半は田村紡がのびのびと動いていたのに引きかえ、大洋は、後半15分までに12本のシュートに失敗。多彩さと確実味という点でやはり田村紡のプレーに一日の長がみられた。

これで田村紡は今年に入って二つ目の全国タイトルを得て、四冠王（あと全日本選抜と全日本実業団）に一歩近づいた。一方の大洋は4年連続2位に甘んじた（中沢）

善戦した岩国工（山口）

高橋男子（10チーム）

▽1回戦

岩国工（山口）25（9—7 16—7）14 大石田（山形）

○…前半、岩国工はディフェンスの甘さをつかれ大石田の攻撃を許したが後半になるとすっかり立ちなおり、攻めてもスケールの大きい試合運びで快勝した（宮本）

新居浜工（愛媛）17（7—3 10—6）9 函館工（北海道）

○…両校ともに緊張からか立ちあがりの動きは鈍かったが、新居

浜は高橋の好リードからうまくチャンスを活かして点差を開いていった。

函館も攻撃機をつかみながらパスミスが目立ち、自滅してしまった。攻撃面でのスピード習得が両校の今後の課題だ（佐々木）

▽準々決勝

明星（東京）10（5−3 5−6）9 岩国工

得	【岩国】		【明星】	得
0	重村	GK	原田	0
0	中村	GK	武井	0
2	野村	FP	氷海	1
1	宮岡	FP	荒井	1
0	森川	FP	小林	0
4	大江	FP	佐々木	2
1	末岡	FP	内藤	2
1	黒瀬	FP	高梨	1
0	笹西	FP	内田	3
0	西村	FP	上平	0
0	上田	FP	吉岡	0
9	（3）	7MT	（0）	10

（主審 浅野）

○…岩国のスローペースにまどわされた感じの明星が、後半一気に4点をあげて17分9−4とした時は、そのまま終わるかに見えたが岩国はよく粘り大江の好技でじりじりと差をつめて22分には8−9と1点差、明星をあわてさせた。

最後まで試合を捨てぬ岩国工の真けんなプレーは高校生らしいみごとなものであった。（浅野）

佐野工（大阪）25（8−5 17−4）9 朝霞（埼玉）

得	【朝霞】		【佐野】	得
0	伊藤	GK	谷浦	0
0	菅谷	GK	矢野	0
3	浅見	FP	山田	3
2	興野	FP	馬野正	5
3	榎本	FP	岩本	4
0	島田	FP	大野	3
1	小林	FP	南	3
0	渡辺登	FP	山原	7
0	渡辺輝	FP	高原	0
0	天野	FP	樽谷	0
0	清水	FP	馬野勝	0
9	（1）	7MT	（1）	25

（主審 佐野）

○…予選で常勝・浦和市立を破った初出場の朝霞は、前半、地元の声援に応えてよく走り、互角に試合を進め、リードされたものの後半に勝機の望みをつないだ。

しかし、佐野工は出足のよいディフェンスのカットから速攻を実らせ、やつぎばやに得点を重ねて最後は楽勝となった。朝霞はスタミナ不足からか後半シュートも鋭さを失い、終盤の頑張りも及ばなかった。（佐野）

桜台（愛知）21（8−4 13−4）8 大分商（大分）

得	【大分】		【桜台】	得
0	日野	GK	吉田	0
0	池部	GK	竹島	0
2	小田	FP	水野	4
0	森崎	FP	清水	1
2	山本	FP	飼沼	1
1	野村	FP	森	6
2	大川	FP	新実	5
0	岡部	FP	宮松	3
1	工藤	FP	松井	0
0	後藤	FP	杉浦	0
		FP	堀田	1
8	（1）	7MT	（2）	21

（主審 遠藤）

○…開始直後2点を先行した大分も、その後は動きが単調となりわずかに山本の個人技で追加点をあげたにとどまった。

一方の桜台は長身・森を中心に速攻、セットプレーをうまくおりまぜ、ポストプレーにも洗れんされたところを見せるなど秀れたチームプレーで着実に得点、一方的なゲームとした（遠藤）

氷見（富山）14（8−6 6−7）13 新居浜工

得	【新工】		【氷見】	得
0	藤田学	GK	矢田部	0
0	小野	GK	山口	0
0	藤田好	FP	吉本	2
0	広瀬	FP	浦野	1
0	円尾	FP	高橋	0
3	明星	FP	吉野	4
7	高橋	FP	大野昭	7
3	玉置	FP	釣井	0
0	武野	FP	高野	0
0	藤田明	FP	大野秀	0
0	白石	FP	池淵	0
13	（1）	7MT	（1）	14

（主審 浅野）

○…立ちあがり氷見は高橋のタップシュートを口火に4点連取、一方的になるかにみえたが、新居浜工も鋭いタテの切りこみから得点を返し、予断を許さず、後半10分には10−9と逆転した。氷見はすぐに立ち直り同点から再度リードしたが、新居浜工も20分、21分に高橋の得点で13−13。しかし氷見は23分大野（昭）が貴重なシュートを決めて逃げ切った。両校ともによく走り高校生らしいキビキビしたプレーはよかった（浅野）

▽準決勝

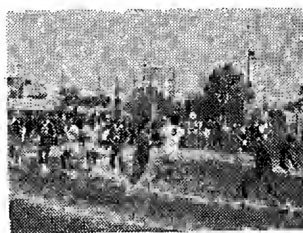
明星 21（11−2 10−5）7 佐野工

○…全日本高校2連勝の明星の実力はさすがに高校ばなれしている。この試合でも攻防両面で秀れたチームプレーを発揮、佐野工はまったくつけいるスキがないほどであった。特にディフェンスのうまさ、固さは定評通りで、シャープな動きから相手のミスを誘っては一気におそいこむ攻撃への切りかえはすばらしい。

得	【佐野】		【明星】	得
0	呑海	GK	原田	0
0	矢野	GK	武井	0
2	山田	FP	氷海	1
3	馬野正	FP	荒井	7
0	岩本	FP	小林	1
0	大野	FP	佐々木	2
1	南	FP	内藤	4
1	山原	FP	高梨	4
0	高原	FP	内田	1
0	樽谷	FP	上平	0
0	馬野勝	FP	吉岡	0
7	（0）	7MT	（1）	12

（主審 佐々木）

佐野工も山原を中心に最後まで食い下ったがもう一つ攻撃に鋭さを欠いていたのは、今後の研究課題と思われた（佐々木）



高校男子準決勝　明星—佐野工
後半 明星⑨上平のシュート成る寸前

桜台 24（12−3 12−9）12 氷見

得	【氷見】		【桜台】	得
0	矢田部	GK	吉田	0
0	山口	GK	竹島	0
2	吉本	FP	水野	4
3	浦野	FP	清水	3
1	高橋	FP	飼沼	0
0	吉野	FP	森	5
3	大野昭	FP	新実	10
3	釣井	FP	宮松	1
0	高野	FP	松井	1
0	大野秀	FP	杉浦	0
0	池淵	FP	堀田	0
12	（1）	7MT	（1）	24

（主審 中沢）

○…小型の選手の多い氷見は動きでカバーしようとポスト・サイドからの攻撃を多用した。桜台はクロスプレーから長身2人を充分に活用して走りまくった。対照的な展開で試合は進められたが、スピードとフットワークは桜台が一段上、時間の経過とともにスコアは開いていった。氷見・大野(昭)の活躍と全員が最後まで突進するファイトは賞したい。ただ両チームともにファイトがすぎて荒くなり、特にブロックプレーからのラフな行為は反省して欲しい(中沢)

▽3位決定戦

佐野工 20（9−7 11−4）11 氷見

○…ともにパスミスや、相手のイージーシュートをストップして速攻の芽をつかみ、得点しあったが、後半、佐野工は、氷見のディフェンスの乱れをゆさぶって10−8から一気に15−8とリード。そのままのペースで押し切った。氷見の乱れが惜しまれる（河本）

▽決勝

明星 16（7−4 9−4）8 桜台

得	【桜台】		【明星】	得
0	吉田	GK	原田	0
0	竹島	GK	武井	0
1	水野	FP	氷海	6
0	清水	FP	荒井	3
0	飼沼	FP	小林	0
1	森	FP	佐々木	0
5	新実	FP	内藤	5
1	宮松	FP	高梨	2
0	松井	FP	内田	0
0	杉浦	FP	上平	0
0	堀田	FP	吉岡	0
8	（0）	7MT	（1）	16

（主審 佐野）

○…両校が全国大会の決勝で対戦するのは3回目。明星が2勝をあげており桜台はブが悪い。どうしても勝ちたい桜台は1−

4の劣勢から新実の連続3ゲットで17分4—4とし、エキサイトした好ゲームになった。

しかし、組織的な動きに優れている明星はたえず主導権を握り、後半は9—6から内藤、氷海らがロングシュートを主武器に勢いにのった攻撃で連続6ゴール、20分には15—6と勝利を不動のものにした。桜台の闘志で、高校生らしい試合であったが、攻防両面で終始自己のペースをくずさなかった明星の快勝。

これで明星は2年連続全日本高校選手権と国体に優勝、桜台が昭和30年から3年連続したダブル・クラウン記録に迫る快挙をとげた（佐野）

栃木女、花巻南破り初優勝

高校女子（11チーム）

▽1回戦

名古屋女商（愛知）13（4—5、9—1）6 熊本市立（熊本）

栃木女（栃木）10（3—0、7—1）1 高岡女（富山）

明徳商（京都）13（6—2、7—8）10 小禄（沖縄）

○…初出場の小禄（沖縄）が近畿1位の明徳商（京都）を激しく追いあげる健闘を見せてコートサイドを湧かせた。

前半明徳は相手ミスから速攻で加点、ペースを握った。後半になると固さがとれた小禄は翁長、奥島らのロングシュートで反撃したが勝負をくつがえすまでにはいたらなかった。

名女商（愛知）—熊本市立ももつれた。熊本は前半、要所で得た7MTを活かして優位に立ったが名女商は後半、得意の速攻とミドル攻撃で浜島、楠田が連続ゴール試合の主導権を奪ってそのまま押し切った。

栃木女—高岡女（富山）は栃木の一方的ペース。高岡は後半、山田が1点を返したにとどまった。

▽準々決勝

深谷女（埼玉）8（2—3、6—3）6 山陽女（広島）

得	【山陽】		【深谷】	得
0	吉川	GK	野口	0
0	三上	GK	押野	0
0	坂田	FP	蛭川	4
3	才崎	FP	菊池	1
1	横正	FP	腰塚	0
0	池田	FP	橋本	0
0	金江	FP	新島	2
2	木池	FP	大野	1
0	小畑	FP	斎藤	0
0	七瀬	（主審 宮本）	奥板	0
0	牧野		野本	0

6（2）7MT（4）8

○…5—5から後半16分山陽・才崎が7MTを決めた時は、それまでたえず先手をとつていただけに押し切るかにみえた。しかし深谷は17分菊池が同点ゲット、18分新島が逆転のシュートを放ち、終了直前蛭川がダメ押しの7MTをあげて有力チームの山陽女を破った。得点のうえでは面白い経過だったが両チームともパスコントロールが悪く、もう少し、正確さを身につけて欲しい（宮本）

新居浜市商（愛媛）9（3—1、6—2）3 明徳商

得	【明徳】		【新居】	得
0	久保田	GK	森	0
1	山田	FP	西粂	0
0	山根	FP	加藤	3
0	下林	FP	山本裕	4
2	森本	FP	山本美	2
0	滝本	FP	中野	0
0	穀富	FP	東	0
0	佐野	FP	金村	0
0	岩瀬	（主審 小松）	田中	0
			小原	0
			大塚	0

3（0）7MT（1）9

○…前半の出来は両チームともパスが乱れよいものではなかったが、後半になると新居浜市商の攻撃がリズムにのり、山本の好技を中心に得点をあげた。しかし、もう少しシュートに確実味が欲しい。

明徳商は最後まで持ちあじが出ず、加えてGKが負傷したのもひびいたようだ（小松）

花巻南（岩手）7（4—2、3—4）6 名古屋女商

得	【名女】		【花巻】	得
0	安谷	GK	坂野	0
0	高橋	GK	三浦	5
3	朝倉	FP	川井	2
0	中島	FP	関	0
1	鹿島	FP	富手	0
0	磯村	FP	山口	0
0	小島	FP	岩間	0
0	藤川	FP	鎌田	0
0	浜島	FP	中島	0
1	伊藤	（主審 永山）	箱崎	0
1	楠田			

6（0）7MT（1）7

○…見ごたえのある試合だったが、花巻南は同点のあと7分から10分まで三浦が連続3点、4—1とした。

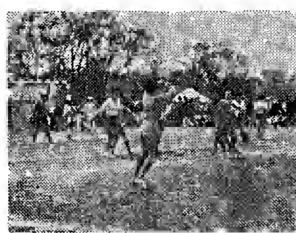
後半、名女商もはげしく追いこんだが、試合運びに一日の長ある花巻南は堅実に先行、逃げこんだ。

名女商は前半10分2—4のあと無得点に終わったのが痛い（永山）

栃木女 11（4—3、7—3）6 室蘭商（北海道）

得	【室蘭】		【栃女】	得
0	河村	GK	長島	0
0	飛沢	GK	羽金	0
5	姫野	FP	永田	1
1	富岡	FP	川田	4
0	真田	FP	新村	3
0	珍田	FP	日向野	2
0	敷田	FP	関口	0
0	後藤	FP	船田	0
0	小川	FP	渡辺	0
0	菊池	（主審 藤田）	刑部	1
0	阿保		牛久	0

6（2）7MT（1）11



高校女子準々決勝
栃木女—室蘭商

○…後半5分5—5。残る15分間に勝負のかかる熱戦となった。

栃木女は、室蘭商のエース・姫野（左腕、一六九・五センチ）を徹底的にマークした。このため室蘭商は動きの流れがとりまり、相手ディフェンスを崩すことができなかった。こうなると攻撃面でも栃木女のペースだ。6分FTから川田、9分速攻から新村がそれぞれ決め、さらに追いうちをかけて13分には9—5と開き、勝負のメドをつける。

後半、マークされていたにもかかわらず姫野の強肩にたよらざるを得なかった室蘭商に対して、日向野（ひがの）、新村らの軸にした栃木女は多彩な攻めを見せチームプレーの威力を示した。テンポのはやい好内容の試合だった（杉山）

▽準決勝

栃木女 5（3—2、2—1）3 新居浜市商

得	【新居】		【栃木】	得
0	森	GK	長島	0
0	西粂	GK	羽金	0
0	加藤	FP	永田	0
1	山本裕	FP	川田	0
0	山本美	FP	新村	2
2	中野	FP	日向野	2
0	東	FP	関口	0
0	金村	FP	船田	1
0	田中	FP	渡辺	0
0	小原	（主審 小松）	刑部	0
0	大塚		牛久	0

3（0）7MT（1）5

○…セットプレーの応しゅうで試合は進められ重苦しい展開をみせたが栃木女は日向野のゲットで1点の優位に立ち余裕が出た。

新居浜市商も県命に追いあげをみせたが、栃木女の固いディフェンスに要所をおさえられ5—3とされたあとは気勢もあがらなかった。

栃木女は終始、自分のペースで試合を進めたのが勝因。国体で初めて決勝に進んだ（小松）

花巻南 6（3—2、3—1）3 深谷女

得	【深谷】		【花巻】	得
0	野口	GK	坂野	0
0	押野	GK		
1	蛭川	FP	三浦	2
0	菊池	FP	川井	1
1	腰塚	FP	関	3
0	橋本	FP	富手	0
0	新島	FP	山口	0
1	大野	FP	岩間	0
0	斎藤	FP	鎌田	0
0	奥枝	FP	中島	0
0	野本	FP	箱崎	0

（主審 岡村）

3（0）7MT（0）6

○…深谷女は花巻南のポイントゲッター・三浦を完全なマン・ツウマンでマークしたが、三浦はその〝警戒〟を振り切って、チンスにボールが渡ると、絶妙なプレーで得点をあげた。後半、深谷女が反撃の機を狙おうとした時だけにこのゲットは効果があった。

花巻南の勝因の一つに、前半の全得点をあげた関の好技があげられる（岡村）

▽3位決定戦

深谷女 12（5—5、7—3）8 新居浜市商

○…前半はまったく互角で甲乙つけがたいシーソーゲーム。

しかし、後半になると、深谷が好調に得点をあげ、10分に10—5と差がついた。

すっかりペースを乱された新居浜市商は、11分ようやく7MTで後半最初の1点をあげたが、相手の速い試合運びに乗ぜられることなく、先行されても自分のペースを守ることにつとめたなら局面は違っていただろう（辻）

▽決勝

栃木女 4（1—2、3—1）3 花巻南

得	【花巻】		【栃女】	得
0	坂野	GK	長島	0
		GK	羽金	0
2	三浦	FP	永田	0
1	川井	FP	川田	1
0	関	FP	新村	0
0	富手	FP	日向野	0
0	山口	FP	関口	3
0	岩間	FP	船田	0
0	鎌田	FP	渡辺	0
0	中島	FP	刑部	0
0	箱崎	FP	牛久	0

（主審 山田）

3（1）7MT（0）4

○…〝優勝〟を意識しすぎて両校ともに動きが固い。

先制点は6分栃木女・日向野があげたが・花巻南も10分7MT（三浦）で同点、17分に三浦が単身ドリブルから鮮やかにゲット、1点の優位にたった。

後半、奮起した栃木女は積極的な攻撃から4分永田で同点、6分日向野で逆転に成功した。

しかし花巻南も9分川井のシュートで3回目のタイスコアとなったが、栃木女は10分左右のゆさぶから日向野が中央からうまく決めて4—3とし、これが決勝点となり初優勝を決めた。

栃木女は、後半ディフェンスがカットインを狙って相手の乱れを誘った策戦が成功したわけで、攻めに移ってからのコンビネーションプレーもうまく活きていた。

花巻南は、後半三浦にたよりすぎたようなところが見え、3—4のあと川井、山口らの県命のシュートも実らなかった。とにかく、後半は動きのある試合だった。

なお、栃木女の全国タイトル獲得は昭和39年全日本高校選手権についで2度目。（山田）

▽皇后杯（女子）順位①埼玉②栃木・三重④愛知⑤岩手・熊本⑦愛媛⑧広島、岡山、大阪、京都、神奈川、東京、北海道

大阪イーグルス強し

教員（10チーム）

▽1回戦（2試合）

桜友会（東京）27（10—11、17—8）19 福井教員

香川教員 22（12—4、10—7）11 日体室蘭教員（北海道）

○…来年の国体に備えて力をつけている福井に桜友会が苦戦したようやく後半になり、フリースローライン前のゆさぶりで、福井のディフェンスを崩して制勝した。

香川—室蘭は、香川が蓮井、石原を軸によくボールを廻し、体力差を活かして快勝した。

▽準々決勝

大阪イーグルス 32（14—8、18—8）16 桜友会

得	【桜友】		【大阪】	得
0	小沼	GK	光島	0
		GK	島崎	0
6	渡辺	FP	松尾	5
7	高野	FP	山崎	2
1	山口	FP	奥浜	3
1	藤原	FP	田中	0
1	山野	FP	東	3
0	鈴木	FP	井上	2
0	高橋	FP	青木	8
0	田中	FP	北岡	3
		FP	加藤	6

（主審 岡村）

16（0）7MT（3）32

○…大阪は全日本3位の貫録を示し、終始自分のペースを崩さず楽勝した。

桜友会は西独戦で示した絶妙の動きや若々しさがみうけられず、わずかに高野・山口二人が13点をたたき出して気を吐いたにとどまった。両チームとも試合運びがきれいで印象に残った。（岡村）

福岡教員 14（8—6、6—7）13 岩手教員

得	【岩手】		【福岡】	得
0	西	GK	福田	0
0	石杜	GK	小室	0
0	足沢	FP	広末	3
2	中島	FP	篠崎	0
0	宮野	FP	清川	1
8	高田	FP	古野	1
0	加藤	FP	中牟田	0
0	川守田	FP	伊藤	1
0	梅野	FP	三友	5
0	小原	FP	坂下	1
3	増田	FP	小林	2

（主審 河本）

13（0）7MT（1）14

○…2点リードされた岩手は後半高田の連続ゲットで8—8の振り出しに戻し、10分に10—9と逆に優位に立ったが、ベテランを揃えた福岡はうまいディフェンスで岩手に主導権を与えず中盤のチャンスに広末、三友が得点、追いすがる岩手を突きはなし逃げこんだ。指導者チーム同士らしい好プレーの応しゅう充分な試合だった。（河本）

山口教員 18（8—8、10—8）16 岐阜教員

得	【岐阜】		【山口】	得
0	大平	GK	中森	0
0	高島光	GK	横瀬	0
0	高島卓	FP	田上	0
0	森川	FP	池田	4
4	石榑	FP	河合	2
2	豊島	FP	増田	0
1	羽上田	FP	常田	6
6	杉本	FP	藤山	2
0	尾藤	FP	松原	3
0	犬飼	FP	中ノ瀬	1
3	大洞	FP	中所	0

（主審 中沢）

16（0）7MT（2）18

○…攻防とも実力は互角。後半10分12—8とリードされた岐阜が追いあげて18分14—14。最後まで予断を許さなかった。このあと山口のパスワークが、わずかに優り、藤山の連続ゴールを生んで優位に立ち、そのまま逃げこんだ。（中沢）

ク 埼玉教員 27（13—4、14—4）8 香川教員

得	【香川】		【埼玉】	得
0	片岡	GK	高橋	0
0	藤沢	GK	上久保	0
1	蓮井	FP	金子	0
1	今田	FP	三枝	4
1	岡内	FP	松田	0
4	石原	FP	北井	8
0	大林	FP	多勢	0
1	松村	FP	結城	9
0	槙井	FP	高戸	0
0	津谷	FP	高田	6
0	山地	FP	樽川	0

（主審 河本）

8（1）7MT（1）27

○…埼玉の本領が発揮されたのは前半10分以後だ。北井、高田、結城、三枝の主力が速攻とポスト

プレーでたてつづけにゴールを割りあっというまに10—1とスコアを開いた。ラッシュ攻撃は、後半15分以後にも再びみられ連続11得点。豊かな練習量を感じさせた。

香川も懸命に食い下ろうとしたが、埼玉の固いディフェンスを最後まで攻めくずせなかった（杉山）

▽準決勝

大阪イーグルス 31（14—6、17—7）13 福岡教員

	【大阪】	得	【福岡】	得
GK	島崎	0	福田	0
GK	光島	0		
FP	松尾	6	広末	0
FP	山崎	0	篠崎	0
FP	奥浜	3	清川	2
FP	田中	0	古野	0
FP	東	3	中牟田	1
FP	井上	3	伊藤	3
FP	青木	5	三友	4
FP	北岡	4	坂下	0
FP	加藤	7	小林	3

（主審 河本）

13（0）7MT（1）13

○…福岡は大阪のかたいディフェンスを破ることができず、再三にわたってパスをカットされ失点を重ねてしまった。

大阪の緩急をわきまえた本領をはじめから発揮されてしまっては福岡もなすスベがないという感じだった（河本）

埼玉教員ク 24（7—5、17—5）10 山口教員団

○…埼玉の速攻、山口の遅攻と持ち味を活かしあって前半を終わった。

後半7—6から埼玉の北井、結城、松田のコンビネーションプレーが山口を圧倒しはじめ、後半20分には18—6となり勝負がついた。

	【埼玉】	得	【山口】	得
GK	高橋	0	中森	0
GK	上久保	0	横瀬	0
FP	金子	1	田上	0
FP	三枝	5	池田	0
FP	松田	2	河合	1
FP	北井	1	増田	0
FP	多勢	9	常田	2
FP	結城	1	藤山	2
FP	高戸	5	松原	0
FP	高田	0	中の瀬	4
FP	樽川	0	中所	1

（主審 藤田）

10（0）7MT（2）24

山口は埼玉の早いあたりとあついディフェンスに手をやき、わずかに相手ミスで終了まぎわ加点しただけだった（藤田）

▽3位決定戦

福岡教員 22（10—4、12—10）14 山口教員団

○…共に出足はよかったが、前半差がついたのは、福岡のストーリング戦法に山口のディフェンスがまどわされた甘さにあったのではないか。

終盤にみせた福岡の速攻はなかなかみごとだった（徳永）

▽決勝

大阪イーグルス 13（8—2、5—10）12 埼玉教員ク

	【大阪】	得	【埼玉】	得
GK	島崎	0	高橋	0
GK	光島	0	上久保	0
FP	松尾	2	金子	0
FP	山崎	1	三枝	0
FP	奥浜	0	松田	1
FP	田中	0	北井	6
FP	東	1	多勢	0
FP	井上	3	結城	1
FP	青木	2	高戸	1
FP	北岡	3	高田	3
FP	加藤	1	樽川	0

（主審 岡村）

12（2）7MT（0）13

○…夏の全日本教職員についで決勝で顔が合うのは2度目。

埼玉は前半、ボールばなれが遅く、オープンにひろがりすぎて横パスが多く、ポストの効果がなかった。このスキを大阪はうまくとらえ、井上の好リードから多彩な攻めで着実に加点、10分3—1、20分5—2、27分8—2と順調にスコアを伸ばした。

後半、埼玉は北井の好技を中心にして懸命に追いあげ、25分13—8から4点を奪って1点差に迫りコートサイドを熱狂させたが、あと1点に泣いた。

決勝らしいスリリングなゲームだったが、大阪の試合運びを絶讃したい（岡村）

▽天皇杯（男女総合）順位①埼玉②東京③大阪④愛知⑤愛媛⑥三重・栃木⑧神奈川・熊本・岩手

第22回国民体育大会総評

清水 正

第22回国民体育大会ハンドボール競技は10月23日より27日の5日間に亘り埼玉県浦和市において全国の代表5種別73チームの精鋭により華々しく開催された。特に本大会始まって以来の沖縄の高校女子の部参加はこの競技の発展を如実に示すものであり、大会の主旨にも添う快事であった。大会を内容的に見ると、1967年の世界選手権大会参加、西独チームの来日と新しい技術を導入した各チームが郷土の栄誉をかけて織り成す熱戦はその意気と個人技において は見事なものがあったが、反面チームとして見ると完全にこれをマスターすることができず、大会の特色よりしてか、余りにも勝敗にこだわりラフなプレーが数多く見られたと同時に現在日本を代表する各層のプレーヤーが一堂に会した大会としては、ほんの一部を除きチームとしての纒りが見られず真のハンドボール競技の醍醐味を充分発揮できなかったのではないかと残念に思われる。特に指導的立場にある選手の層の中でエキサイトの余り作為的の反則が多く見られたことは大いに反省すべき点ではないかと思う。高校の部においても高度のプレイが完全に消化されぬうちに模倣的に行なわれ、ラフなプフーや凡ミスが多く見られたことは残念であり、より基本に忠実なチームプレーに終始する真摯の態度が望ましかった。同時に異常な緊張感からかい縮しのびのびしたプレーが見られなかったことは今後の精神的面の指導の問題であり、特に体力の面において非常に向上した現在精神面の進歩が技術向上のポイントになるのではないかと思う。又総合選手権大会の折の総評（本誌47号）にもあったように負傷者が続出したことは留意すべき点であり、今回の大会においてもグランドが稍軟弱ではあったが、別表の如く負傷者が多く特に一般男子、教員の部に多く見られたことは、普段の練習量の不足と無理なプレーが多くあったのではないかと考えられる。特に一度負傷した選手が無理して出場し、より重傷を負っていることは監督としてもチームの編成上無理はあっても大いに考えなければならない点だと思う。

大会運営については、関係者各位の努力によって立派に行なわれ、特に競技人口の少ない埼玉県の地元役員の方達の努力に対しては敬服するが、郷土の声援のため地元の試合になると任務を忘れゲームに引き込まれ本務を怠る点が見られたことは、毎度の大会に見られることながら反省すべきであると思う。（大会副審判長）

本大会種別別外傷一覧表 （救護係調査）

種別＼傷害名	擦過傷	捻　坐	裂　傷	打　撲	計
一般男子	10	9	11	2	32
一般女子	0	1	0	2	3
教　員	7	2	1	3	13
高校男子	0	0	2	1	3
高校女子	0	2	0	1	3
計	17	14	14	9	54

評議員会・理事会開かる

10月22日・23日浦和市にて

国体時に恒例の理事会、評議員会が、埼玉県浦和市で開かれ、内外に山積している種々の問題に関して討議が重ねられた。

評議員会

評議員会は10月23日（月）午後6時から浦和市「小島屋」に評議員を集め開かれた。

通例のように出席者は少なく、委任状出席が多数を占めた。

報告事項からまずはじめられ、総務部から7月に行なわれた全日本学生選手権、8月に行なわれた全日本高校選手権、全日本教職員選手権、全日本総合選手権、9月に名古屋で行なわれた学生東西対抗、つづいて、9月に各地で行なわれた日独国際親善大会の順位、戦績についての報告がなされた。

技術部からは日独親善大会で対戦した全日本について、普及部からは、9月に開かれた公認コーチ講習会、全国スポーツ少年大会について、審判部からは8月に行なわれたA級審判研修会について、報告があった。このほか各部からの報告があり、報告事項を終了した。

まずメキシコオリンピックの関係で例年とはやや異った日程をとることになっている昭和43年行事日程が上程され、執行部原案通り承認された。学生選手権は例年通りだが、高校選手権、教職員選手権、総合選手権、国民体育大会はいずれも今年より、10日ないし二週間早い時期に開催されることになった。

ついで41年度の決算、日独大会の決算を承認した。

来年の2月3日の日本協会三十周年記念行事を行なうことを決定し、その詳細は執行部に一任することになった。

理事会

理事会は評議員会に先立ち、10月22日（日）午後5時から、浦和市千代田旅館で開かれ、評議員会で触れた事項の報告を了承、審議事項を承認し、23日の評議員会に備えた。理事会には多数の理事が出席し、熱心な討論がなされた。

日本ハンドボール協会創立三十周年記念委員会発足

10月23日の評議員会の決定により、三十周年記念行事特別委員会が発足した。会長には鈴木会長、副会長には各副会長、委員長には荒川理事長が就任することになり、総務、財務、事業の各部をおき、総務委員長には的場益雄常務理事、財務委員長には浜田猪三郎常務理事、事業委員長には若崎重富常務理事が推された。

現在この委員会を中心に記念行事が計画されている。なおその内容は慎重に検討中であるが、本誌もその趣旨にのった特別号をこの委員会の下で計画中であり、2月号は記念号として発行の予定。

全国理事長会議も開く

10月22日浦和市で

全国理事長会議は理事会に引きつづき、22日午後6時から、浦和市「千代田旅館」で鈴木会長、荒川理事長、埼玉県協会長らの列席もあり、盛大に開かれ、内外の問題について、現場のナマの声が聞かれた。

出席者は次の通り

石切山稔治（北海道）、由利弘（秋田）、佐藤敦（岩手）、保坂浩（山形）、永山茂（茨城）、町田歳雄（群馬）、若崎重富（神奈川）、井田万三郎（埼玉）、佐野和夫（東京）、清水正（山梨）、油井孝一郎（長野）、渡辺五郎兵衛（新潟）、片瀬喜代次（静岡）、天野耕兵衛（石川）、嶋田重春（富山）、岡田重博（岐阜県理事長代理）、森田正英（奈良）、岩西宏純（和歌山）、中根武彦（三重）、小西博喜（京都理事長代理）、増岡茂義（兵庫）、山田計（大阪）、辻一義（岡山）、藤田信義（山口）、松村守（長崎）、中西敬一（福岡）、疋田忠（大分）、藤田八郎（熊本）、宮城勇（沖縄県理事長代理）、鈴木達雄会長、馬場太郎副会長、西敏郎副会長、荒川清美理事長、的場益雄・徳永陸繁・岡村昭二・安藤純光・浜田猪三郎・境井秀三・山田稔・藤本強（以上本部協会）、藤間英一、遠藤健次、高橋健夫、塚原千尋（以上埼玉県協会）以上45名

日独国際親善ハンドボール大会決算書

＜全　国　大　会＞

借方	項目	貸方
9,295,049	仮受金	7,948,664
	分担金	8,400,000
	雑収入	326,000
4,600,000	航空料	1,000,000
540,000	選手団小遣い	
1,348,412	宿泊費	
21,670	会議費	
32,541	通信費	
202,348	レセプション費	
72,000	通訳費	
74,000	印刷費	
663,806	国内旅費交通費	
52,150	観光費	
22,580	医療費	
8,900	写真代	
13,000	謝礼	
21,000	ボール代	
40,000	土産代	
24,000	体育館使料	
56,900	雑費	
915,333	末収金	
	未払金	329,025
18,003,689	計	18,003,689

日独大会決算おわる

日独国際親善ハンドボール大会の決算が左のように発表された。

先の評議員会の時には、未請求のものがあつた。開催各チームに対し予定通り4万円を返却することが決定された。

その結果、黒字1、932、693円から各チームに4万円、計96万円を返却し、残額は972、693円となった。

全日本実業団 25分ハーフ（女子）で実施

日本協会は11月6日の常務理事会で来年2月8日から熊本市体育館で開かれる第8回全日本実業団選手権大会女子の競技時間を25分ハーフで行うことを決めた。

これは、ヨーロッパ諸国がすでにIHFの規定にしたがいハーフ25分を施行していることと、来年11月第4回世界女子7人制選手権（モスクワ）が行われるため、できるだけ早い時期に新競技時間を採用したいという意見が認められたものである。

なお、日本協会では近く、全国に、昭和43年4月1日から女子の公式試合を25分ハーフに改正することを正式通達する。

国際ルール改正に伴い、国内ルールを速やかにきりかえることは必要であるが、これと国内事状との関連をどのように調整するか、今後の大きな問題がある。

男子・大阪、女子・熊本で
来年2月の全日本実業団

全日本実業団連盟では、来年2月開かれる第8回全日本実業団選手権大会の要項を発表した。

それによると同大会は、はじめて男女わかれて行われることになり、男子は2月10日から14日までの5日間・大阪市立中央体育館、女子は2月8日から11日までの4日間・熊本市体育館が会場となる

参加希望チームは12月10日〆切りで、男子は日本協会及び大阪府高槻市辻子241・宗形製作所内「全日本実業団 ハンドボール 選手権大会事務局」。女子は日本協会及び熊本市黒髪町坪井「熊本県ハンドボール協会藤田八郎」まで申しこみをすることになっている。

組み合せ抽せんは12月16日日本協会で行われるが男子はトーナメント、女子はリーグ戦の予定。

男女とも熱戦が期待されているが、特に女子は四強の今年度最後の王座をかけた対決だけに激戦は必至となろう。

"ミュンヘン五輪、女子実施を考慮"

――バウマンIHF会長・渡辺副会長会談――

訪欧中の日本協会・渡辺和美副会長は、10月19日午後、スイス・バーゼルに国際ハンドボール連盟（IHF）会長ハンス・バウマン氏を訪ね、最近の国際ハンドボール界の諸問題についてこん談を行った。渡辺副会長は11月3日帰国したが、編集部ではその会見の内容について話してもらった。

——バウマン氏訪門の目的はどこにあったのですか。

『ミュンヘン・オリンピックに対するIHFの考えかた を聞くためと、IHFでの日本ハンドボール協会の立場を確立して欲しいと要望することだった』

——その結果を聞かせていただきたいのですが。

『IHFではミュンヘン・オリンピックのハンドボール競技を室内で行いたい意向だが、西ドイツ（ミュンヘン市）では、経費、設備の点から、屋外7人制で実施することも考えているようだ。

バウマン氏は近く訪独して室内で行うよう話を進めるといっていた。

参加国については、バウマン氏ならびにIHF首脳は、男女各16ケ国出場を理想として西ドイツに要請しているようだ。

しかし男女各12ケ国あるいは男女各8ケ国ということもありそうだ。

最悪の場合は男子のみ16〜12ケ国だということである』

——出場国の選定についてはIHFとしてのプランはすでにあるのですか。

『男子は、一九七〇年フランスで開かれる第7回世界7人制選手権の上位8ケ国にオリンピック出場権を与えることにほぼ決まっているようだ。開催国である西ドイツは無条件で出られるから一九七〇年までに出場9ケ国が決まるわけで残りのワクは予選で選出されることになろう』

——日本が予選に出なければならないとしたらアジア地区ということになりそうですか。

『バウマン氏は、アジア地区といった地域制をしかず、全世界一区としたい考えのようだ。アジア地区の設定を私個人としては強く希望して来た』

——女子については

『IHFとしては、女子を参加させることの推進が先決問題で、出場国の決定などについてはまだ白紙のようだ』

——日本ハンドボール界のIHFにおける立ち場の確立についてはどうですか。

『オリンピック参加という大きな問題が生まれた以上、IHF内部と連絡を密にすることは何かにつけて便利だ。

常任理事国になることは、会がたえずヨーロッパで開かれる現状から、そのたびに出席することが難しいのでムリだが、理事会のメンバーには是非加えてくれるようたのんだ。バウマン氏は善処してくれるといっていたので期待できると思う』

——IHF理事会の構成はどうなっているのですか。

『加盟43ケ国のうちの12ケ国から理事が出ているようでかなりの発言力をもった組織だ』

——そのほかIHFに要望した事項は？

『IHFのインフオメーションをもっと積極的に日本にも向けてくれるように依頼してきた。』

——バウマン氏が日本ハンドボール界に希望していたことがありましたか。

『レベルの向上のほか、IHFの動向について日本が関心を示していることを喜んでくれた。

また、IHFの総会（注・次回は来年9月アムステルダムで開かれる予定）には必ず日本から代表者が来て欲しいとくり返し述べていた』

なお、渡辺副会長の談によればバウマン氏は、一部の国で試行されている複審制は欠点が多いためIHFの規定として全面実施をするにはなお検討の余地があるといっていたそうで、また、女子の公式試合が25分ハーフに改正され、ヨーロッパ各国ですでに実行に移されている点も確認された。

◇ハンス・バウマン（Hans・Baumann）氏の横顔

１９０６年スイス生れ。著名な建築設計士でバーゼルに設計事務所を開いている。

青年時代ハンドボール選手として活躍、その後は、国際ハンドボール連盟首席副会長として重きをなし、１９４８年ゲスタ・ブジエルク前会長（故人）の辞任にともない会長となり現在まで重任（IHF役員の任期2年）各国関係者の信望のあつさを物語るものだ。

第2次大戦後の国際ハンドボール界復活に特に力があり、それまでの「国際アマチュア・ハンドボール連盟」の名を現在の「国際ハンドボール連盟」に変えるなどした。

昭和31年西ドイツに同行して来日

連載・リレー寄稿

日本ハンドボール界の課題（6）

～三十周年を迎えた球界に望む～

辻　一義
（岡山協会理事長）

働き盛りを迎えたハンドボール界を地方協会中心に見るのも一つのあり方と考え、ふり返りふり返りながら書いてみよう。

底辺拡充にことよせて

日本協会と共に歩いて三十年、その間には日本協会とは別の意味での、地味なしかも、大いなる努力があったことをあらためて見ていただきたい。各県高体連ハンドボール部の地味な努力が今日のハンドボール界の大きな柱となったといっても決して過言ではないはず。

それではその大きな柱をより強く、より大きくするために日本協会はどのような肥を与えただろうか。先般来、底辺の拡大拡充がさけばれ、現登録チーム数の一割増を日本協会より再び通告されているが、何とか一チームづつでも努力している地方協会及び高体連ハンドボール部にとって、これ程「こく」なことがあるだろう。中学校指導要領の中に決定されているのならいざ知らず、まだまだ判然としない状態で入るだろうだけで楽観していていいだろうか。

地方協会としては、活字としてそれを「公の場」で受け取るまでは決して楽観できないと自分自身にいい聞かせている。中学校には沢山のハンドボールを指導できる有意な人材が、一日も早くとてぐすねひいてまっている。この人達の陰の努力にむくいる意味からも一日も早く「公の場」で受け取らせてほしい。それすなわち、一番大切な肥ではないだろうか。

またせっかく育とうとしているクラブチームを見ていただきたい。乏しい金を都合して好きだからこそ楽しもうとするクラブチームが、現在のままの状態で、はたして育ってゆくだろうか。どれだけチャンスに恵まれているだろうか。

ある競技種目では、ある公式大会の上位4チームは国体に参加させない。できるだけチャンスの少ない地方の恵まれないチームにもチャンスを与える意味からも国体はそうしたいと報導されている。

ある時期に実業団を育てられたように、もっと暖いしかも長い目で大事に育てていただきたい。何故ならばこれこそ底辺拡大につながる大きな力であると考えられるから、思いきり、肥を与えていただきたい。国体のあり方が問題になっている昨今、この問題を真剣に考えて、ご検討いただきたい。

ことある毎に指導者が不足しているとか、指導者を養成しなければ、という言葉をよく耳にし、又読ませていただく。そのたびに全日本教職員大会のことが思われるせっかく全日本という立派な大会を持ちながら、なぜそれをより育てようとしないのだろうか。色々な複雑な問題があるだろうが、より権威のある、より魅力的なものにしなければならない。そのための努力は日本協会が一層心がけなければならない。これこそ前記2点にもまして、最大の底辺拡充への近道であると信ずる。

多くの地方協会がそうであるように、協会といっても高体連ハンドボール部に「おんぶ」しているのが現在の状態でこればかりはどうすることもできない。だとすれば、高体連をより一層育てるためにも、もっと多くの努力が払われるべきではないだろうか。

先づ高体連で生を、うけたものが、大学、実業団で活躍するとすれば、高体連に今一層の育て方、努力が払われて当然だと考えるのは「ひがめ」だろうか。

各学校の校内大会にハンドボールをやるのだと、よく聞かされる。あと数日で校内大会がはじまるという、しかも日曜日、午前九時頃から、彼や、彼女等がグランド一杯に嬉々としてハンドボール練習をやっているのを見れば、たまの日曜日だ、などと、ノン気なことはいってはいられない。早速でかけて、ラインを引いたり、ネットをはったり。このようなことは、どこにでもあることだろう。しかし、これも見捨てることができない。或はファンとなり、或は人口増加につながると思えば、自然とラインを引くのにも力が入るというものである。これが地方協会の高体連ハンドボール部の姿なのだ。

さて、第一回の本稿において杉山氏が、地方選手権の重要視をとかれている。全く同感で拍手すら送りたい。やっと我々ブロックにもブロック協会が発足し、その第一歩をおろそうとしている。タイミングよく、そのようになったことを嬉ぶとともに、ブロック協会発足以前から、ブロック選手権を、ここまで育てて下さった先輩諸氏には厚く敬意を表したい。

大世帯でなく、小さな県協会の一員として、どのようにして現登録数の一割増に取り組むかは小さければ、小さいだけ大問題なのだ。それを簡単に一割増と言われたとすれば、前記のように「こく」に聞くなといわれても小さければ、小さいだけ「こく」と聞こえるのは当然であろう。

日本協会がいう一割増が解らないという意味では決してない。現に一割増にはなっている。やっと何とか、一割増にこぎつけて、今さら、ほめられようとは思わないが「ご苦労さん」ぐらいのことはあると思っていれば、また、新たに一割増では世帯が小さければ、小さいだけ「こく」に聞こえないだろうか。

もっと長い目で見るとか、暖い思いやりとか、いうものは、全然ないのだろうか、といいたくなる。むしろ、地方協会のいい分としては、そのために日本協会から、どれだけ地方協会に見返りが、あるだろうか。取るものは取りっぱなし、それでは地方協会の立つ瀬がないではないか、という気持が強い。

「育てる」ということが、如何に、むづかしいかということを、親爺の年代になった日本協会として大いに考えていただきたい。

日本ハンドボール協会創始期の思い出 (1)

松本良三

ハンドボール「事始（ことばじめ）」

此記事は私が協会の機関誌「ハンドボール第42号」に載せられた杉山茂氏の筆になる「ハンドボール球史第31回」の中で私が直接に協会の面倒を見ていた時代について疑問の点があったのでそれを問い合した所、氏は返って、その時分のことを何か書いてくれとのことでそれに応じたものなのである。

我国文化的古典として有名な「蘭学事始」の中で、その著者杉田玄白は「一滴の油これを広き池水の内に點すれば散って満池に及ぶとや。さあるが如く、その初め、前野良沢、中川淳庵、翁（玄白自身を指す）と三人申し合はせ、かりそめに思ひつきしこと、五十年に近き年月を経て、この学（オランダ医学）海内に及び、そこかしこと四方に流布し、年毎に訳説の書も出づるように聞けり。これは一犬実を吠ゆれば万犬虚を吠ゆるの類にて、その中にはよきもあしきもあるべけれども、それはしばらく申すには及ばず。かくも長命すれば、今の如くに開くることを聞くなりと、一たびは喜び、一たびは驚きぬ。今この業を主張する人、これまでのことを種々の聞き伝へ語り伝へを誤り唱ふるも多しと見ゆれば、あとさきながら覚え居たりし昔語をかくは書き捨てぬ」と述べている。

「蘭学事始」の一節を引用して、私の「協会創始期の思い出」の緒言とするのは、如何にも大げさにひびくかも知れないが、創立時の協会は、丁度、杉田玄白がオランダ医学に熾烈な情熱をもやしては見たものの、さあ、どう手をつけたらよいか、全く見当がつかなかったのにも、比すべきものがあったからである。

無いものだらけ

その時分の協会は謂わば素裸の貧乏人で持っていたのは見たところだけは立派な「協会の印」だけで其他は事務をとる所は勿論ボールを始め、ゴールのポストやネット、又直ぐに借りられるグラウンドなど無いものだらけで、運営資金の如きは皆無であった。折角、陸連から載いたハンドボールは、所謂「乞食が馬をもらった」ようなものでどうにもならなかったのである。

協会が出来てから間もなくのこと、講習会を催すことになったが、適当な場所が見当らない。大谷氏を煩して代々木の体育研究所のグラウンドを拝借したのであるが場所が狭く、隣接した所に牛が放牧してあり、少しボールをロングシュートすると、それが牛に当り、牛が驚いて馳け出すというわけであった。此時、始めてハンドボールを見た人は、これは「闘牛」の一種だと思うだろうと笑ったのであった。此時の講師は塩沢、栗本、保坂、酒井、細川の諸氏で外山、阿部の二氏も是れに加った。参加校は青山師範、文理大、日体、慶応であった。其日は、恐ろしく寒く、みぞれが降り出したので、練習を少し早目に切りあげた所へ、平沼会長が見えた。練習を見なかったのを非常に残念がられ、自ら運動場を馳け廻られたのを、昨日のことのように思い浮べる。

又ボールであるが、運動具店ではハンドボールなど知らない者もあり、商品としての見透しがつかず、一般にその製造などしたがらなかった。これは中園氏の御配慮でタチカラが協力してくれることになった。此時など全くホットした。

寛大な平沼会長

何といっても、此間一番御厄介になったのは平沼会長であった、春秋行われたトーナメントを手伝ってもらう者の足代、凡ての通信出版費、年々大体、二月に行われた理事会、優勝ティームの御祝、其他の会合、そして段々盛んになると優勝盃や優勝楯が必要となり、是等に要する費用は凡て会長に出して載いた。

私は当時、上目黒に住って居り、横浜の平沼氏のお宅にお願いに上った。氏は非常に御多忙な方で、氏に御目にかかるには朝八時前に御自宅に参上する以外に確実な方法は無かった。早朝に起き出で、大急ぎで、仕度をし、代官山駅から東横線に乗り、反町駅で下車し、それから約25分徒歩で沢渡りの御家敷に上ったのである。協会の為とはいえ、真に申しわけない気持であったが、書類上以外には、組織らしい組織のなかった協会としては是れより外に経済支弁の道がなかった。猶、上述の優勝盃と楯であるが、それは私の上目黒の家が比較的閑静で、空襲の恐れが無いだろうというので、拙宅に置いてあった。然し、それは昭和20年5月25日の東京大空襲の時に、私の家、其他の私有物と共に全部焼けてしまった。つ

い一ケ月許り前に、ある人から是等の盃と楯は、どうなったかときかれたので、茲に明記して置く。

資金集めの演芸大会

スポーツは、直接に金銭とは関係がない。然しその育成、運営には費用がかかる。是れは協会が行ったのではないが、ハンドボールの為に資金を得ようと演芸大会を催したことがある。たしか昭和14年に、早稲田大学でハンドボール部が出来た時に一文も資金がないので、早慶で何かやろうということになり、早稲田の山崎君と慶応の外山君が東奔西走して準備した。外山君が慶応の普通部の先輩、藤山一郎氏を通して出演してもらったのが、当時登り坂にあった人々で、徳山璉、あきれたぼういず、岸井明、横尾デカオ、淡谷のり子、武智豊子、三門順子、此外に男の人でアコーディオンの名手が出られたが、つい御名前を失念した。場所は日比谷の公会堂で九分通りの入りで、成功であった。早稲田の酒井部長と私が開演に先立ち挨拶した。入場料は一人一円であった。

出演者には一様にお一人十円の謝礼をし、往復は自動車を用意した。凡ての費用を支弁して五、六百円残ったので早慶で二分した。結局、資金というほどの金は得らなかったが、当時送球と呼ばれていたハンドボールの宣伝に加成り役立ったようである。

人生は出合いなり

もはや亡くなったが、西独の哲人、ハンス・カロッサは、「人生は出合いなり、」と喝破した。彼は、人類の古い時代からの文化的遺産は尊いものではあるが、それよりも、もっと大切なのは、現存する人相互の「出合い」であり、そこに生れる心のつながりこそ、文化創造の契機であると説いた。

私がハンドボールと関係をもつようになったのは昭和12年の秋の一日、日吉の慶応大学の教員室での一学生との「出合い」に始まる。その学生というのは、後に、協会の理事長をつとめ、現在はその参与であり、又、東京都のハンドボール協会の副会長である外山准二氏である。

外山君は其時、二、三の学生を伴っていた。そして私に「慶応のハンドボール部の部長になってほしい」との事であった。外山君は、元来塾の剣道部員で、その鋭い剣には多大の望みがかけられていた。然し、同君はハンドボールの価値を認め、昭和12年の夏に倶楽部をつくり、自らその主将になっていた。

送球と掌珠

私は外山君に「私が夢中になっているハンドボールというのは1850年の頃アイルランド人、ウィリヤム・バッグにより大成され、今、米国で盛んになっている室内遊戯でそれは君の云うドイツ式のものとは、全く異るものである。」と言った。所が外山君は「内容は異っても、名前が同じなのと、先生のスポーツへの強い関心に依ってお願いするのです」とのことであった。此アイルランド式のハンドボールは（註・私は此ハンドボールの日本名を、ドイツ式のハンドボール、即ち「送球」に対して「掌球」となすべきであることを提唱した。東京基督教青年会の機関誌「東京青年、昭和12年8月号」参照）日本では東京神田のYMCAの体育部だけにしかない。その歴史は初期の略式のものをいれると約50年になる。私は昭和9年の12月に、そこで行われたトーナメントに、シングルスでは、準決勝に敗れたが、ダブルスでは優勝した。此時のダブルスは出来得る限り多数の人を参加させるのが目的で、上位プレーヤーと下位プレーヤーとを組ませたもので、ダブルスと云っても、勝敗は、多分に上位プレーヤーの技術如何によって決まるものであった。私はその上位プレーヤーの一人であった。又、私は慶応の学生時代にフィールド・ホッケーを行い、決して上手ではなかったが、フォアワード・レフト・インサイドとして選手の末席をけがした。斯様なわけで私はスポーツに対して理解をもっていた。外山君は、是れをよく知って居り、それは後になって知ったことであるが、同君の驚くべきネバリにあって、とうとう部長にされてしまった。

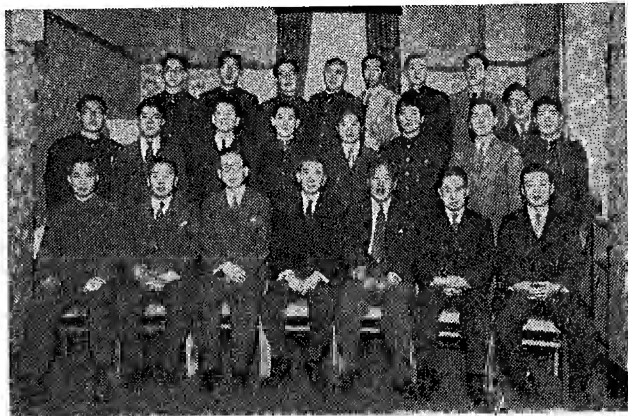
日本ハンドボール協会の創立

昭和13年1月の末に外山君は「今度ハンドボール協会が出来るので、是非、その発会式に来ていただき度い。」とことであった。その発会式は2月2日に赤坂の「幸楽」で行われた。平沼会長の発会の辞などあり、一同、会長の御馳走にあずかって、盛会であった。其席で、私は始めて中園進氏に御目にかかった。氏は私に」今度できた協会の面倒を見てもらい度い」とのことであった。私は中園氏のことはかねて外山君から聞いていたので、「貴殿が準備されたのだから貴殿がなさいまし。」と云ったが、氏は「私は他にやることが沢山あるから、是非やってもらい度い。」と言われ、傍から外山君も推進した。

私はスポーツに対し理解は持っていたが、その運営などにあずかったことはなかったので此際、すぐには決しかねていた。然し当時の我国スポーツ界の大御所であった平沼氏が会長であり、それに氏は私の家の古い親類でもあったのと、風貌、恰幅、堂々として他に迫る大谷副会長、又、素朴にして慧眼、人を疑わない中園氏、それに陸連以来、ハンドボール育ての親である浅野、安田、鈴木、塩沢、酒井、今村、山県、保坂、塚本、杉浦、石津の諸理事の御指導を期待しつつ、遂に此大任をお受けした。

八年間の奉公

勿論、此際、私は辞令などもらったわけでもなし、又民主的な選挙によってえらばれたわけではないが、ただ人としての相互信頼によって斯うなったわけで爾来八年間終戦の年迄、平沼、永井両会長の下で、専務理事としての職責に当った。そして昭和13年5月には関東学生（後に日本学生）ハンドボール連盟も生まれ、会長は平沼氏で私はその副会長に任ぜら



れた。発開式は、丁度、その時出来上った許りで平沼氏が社長であられた第一ホテルで行われた。玆にのせたのが其折の写真で、平沼会長を始め大谷、栗本、中園、酒井、外山諸氏のお顔が見える。筆者は大谷氏の右隣りに居る。

玆でお断りして置き度い一事がある。前掲の杉山氏の記事によると、協会設立時から昭和15年4月迄の2年余りは、中園氏が、平沼会長の下で専務理事であったことになっている。是れは既に述べた所でも明かである如く、全くの間違いで、此期間こそ、私が微力ではあるが、協会の為に最も骨を折った時である。骨を折ったなどと云うよりも、血気盛んな学生諸君、又池上、的場両理事に完全に引きづり廻されたと云った方が当っているかも知れない。学生といえば、早稲田の肥後、宮崎、井出、日体の徳永、高嶋、明治の吉田、園部、法政の浮谷、慶応の外山、林、西など、なつかしい記憶がよみがえって来る。猶、此間、関西方面では、今協会の副会長であられる馬場太郎氏の豊中中学を中心としての御活躍には終始一貫したものがあり、又、岡山県の体育主事岩野次郎氏の倉敷を中心としての御指導には頭の下るものがあった。

更に平沼会長は、その名著「スポーツ生活60年」の中で、「自分は十四のスポーツ団体の会長をしているが、建前として自分の出来ないスポーツの会長にならない」旨を述べられたあとで「但、例外は送球で、これは日本へ来たのはつい近年であるから、勿論、全然やったことはないのであるが、選手出場権を陸上競技連盟が握ってゐて、その世話の方は体操連盟がやってゐた。それで新しく生れた送球連盟の会長は陸連体連双方の会長の平沼にさせろといふので私が、暫く預っているが、実際の仕事は、慶応の予科の先生の松本良三君が総べてやってゐてくれる。」(同書二七七－二八〇頁）と述べられている。斯様なわけで、私の協会奉仕の時期は、平沼会長時代の全部から永井会長の時代へ亘って約八年なのである。

大崎の3冠阻むか学生勢（男子）

～12月13日から全日本選抜室内～

女子は実業団の強豪ひしめく

今シーズンのハンドボール日本一を決める第14回全日本選抜室内選手権は12月13日から17日までの5日東京体育館に日本協会推せんによる今年度全国大会上位チーム（全日本高校選手権を除く）男子8、女子7チームが参加して行われる。

ミュンヘン・オリンピックに備えトップレベルの強化を企る球界にとって、この大会の持つ意義はますます重く大きくなり、連日好試合がつづくものと期待されている。

出場チーム

○内数字は出場回数

▽男子A組　大崎電気（埼玉・⑧）大阪イーグルス（大阪・④）、芝浦工大（東京・⑧）、全神奈川（神奈川・①）

▽同B組　全立大（東京・⑤）、東京教育大（東京・⑥）、岐阜教員（岐阜・③）埼玉教員（埼玉・①）

▽女子A組　田村紡（三重・⑥）日体大（東京・⑫）　三菱鉛筆（神奈川・③）

▽同B組　大崎電気（埼玉・⑦）愛知紡（愛知・⑩）　東京女体大（東京・③）　東京重機工業（東京・⑤）

展望

男子　順当ならA組から大崎電気と芝浦工大、B組から全立大と東京教大が進出するだろう。

波乱が起きるとすればA組だ。本命・大崎も楽観を許せぬほど持ち味豊かなチームが集った。関東選手権、国体の経験で大崎には自信をもつ全神奈川、巧者を揃えた大阪イーグルスは波にのれば一気に決勝リーグへ飛び出す力を備えている。特に大阪イーグルスの存在は無気味である。

B組はスピード豊富な学生勢に埼玉教員がどこまで食下るか。

第1日の東京教大—埼玉教員戦はみものだ。

予想通りの顔ぶれで決勝リーグが争われるとなると〝四冠王〟をめざす大崎の前に学生がどう立ちはだかるかというのが焦点になる

気おいこむ学生勢の斗志に大崎が全立大戦を待たず土をつけられるようだと、学生同士の優勝争いとなり、全日本学生、同王座、関東学生春秋と4タイトル独占の全立大が今回も他をおさえよう。

夏の全日本総合と同よう大崎—全立大の対決になれば〝一発〟に強負根性を見せる大崎のベテランの味が大きく作用しそうだ。

技術、体力にまさる学生勢が社会人勢をおさえて優勝を飾る公算が強いとみたい。

女子　大洋デパートが勤務の都合で出場辞退したほかは実力伯仲の上位チームが勢揃いし準決勝段階から波乱がおこりそうだ。特にA組田村紡—三菱鉛筆（第一日）B組大崎電気—愛知紡（第三日）の二試合は優勝の行方を左右するだいじな一戦。

最終的には優勝は、すでに二冠（全日本総合、国体）を掌中にしている田村紡と、前回の勝者大崎の争いとなるだろうが、前記の2試合の結果では大きな波乱もおきそうだ。特に上り坂の三菱鉛筆が一気に女王の座へつく可能性も出てこよう。

打倒実業団をめざす学生ナンバー・ワン日体大は田村紡、三菱にかこまれ苦しい。

試合方法

男女とも参加チームをAB2組に分けて「準決勝リーグ」を行い各組の上位2者が「決勝リーグ」に進むがすでに準決勝リーグで顔合せしているカードの成績はそのまま適用される。

選考経過

基本方針として今年も男女とも全出場チームを日本協会が推せんすることとしまず8月の第19回全日本総合選手権（福井）の上位4チーム（男＝大崎電気、全立大、東京教大、大阪イーグルス。女＝田村紡、大崎電気、大洋デパート、愛知紡）を決定。ついで7月の第10回全日本学生選手権（東京）、2月の第7回全日本実業団（名古屋）、8月の第10回全日本教職員（神戸）、10月の第22回国体一般（浦和）のそれぞれ男女各1位を推すことに決め女子の日体大が加えられた。他のチームはすでに全日本総合での成績を認められているため、各大会の2位に資格を与えることとし男子は芝浦工大、住友化学菊本（出場辞退）、埼玉教員、全神奈川の4チームを推せん。女子の残り3は年間実績の評価によった。

男子準決勝リーグ

日程	対戦
12月13日	大崎電気——全神奈川
	全立大——岐阜教員
	大阪イーグルス——芝浦工大
	東京教育大——埼玉教員
12月14日	東京教育大——岐阜教員
	大阪イーグルス——全神奈川
	全立大——埼玉教員
	芝浦工大——大崎電気
12月15日	芝浦工大——全神奈川
	埼玉教員——岐阜教員
	大崎電気——大阪イーグルス
	全立大——東京教育大

女子準決勝リーグ

日程	対戦
12月13日	大崎電気——東京重機
	日体大——三菱鉛筆
	愛知紡績——東京女子体育大
12月14日	田村紡績——三菱鉛筆
	愛知紡績——東京重機
	大崎電気——東京女子体育大
12月15日	東京女子体育大——東京重機
	田村紡績——日体大
	大崎電気——愛知紡績

男・女決勝リーグ

日程	対戦
12月16日	男女各2試合
12月17日	男女各2試合

※ 12月13日～15日は午前11時から
12月16日～17日は午後1時20分開始

V

立教、大差で2連勝飾る

全日本学生王座決定戦

第20回全日本学生王座決定戦は11月23日午後3時から、駒沢体育館で開かれた。東日本学生選手権の勝者・立教大学と西日本選手権の勝者・関西大学との間に行なわれ、立教大が二連覇二度目の学生王座についた。昭和36年以来王座は七年連続関東のものとなった。観衆ははだ寒い日であったが、約一千名集った。

立教大 22（13―3、9―7）10 関西大

主審・中沢重夫（芝工大ＯＢ）

副審・中野偉夫（東教大ＯＢ）池田鉄哉（芝工大ＯＢ）

	【関大】	得
GK	平松	0
GK	西口	0
FP	飼沼	0
FP	馬着	2
FP	武田	0
FP	長野	1
FP	加古	1
FP	宮永	5
FP	西脇	0
FP	松田	1
FP	小川	0

	【立大】	得
GK	川口	0
GK	天野	0
FP	木野	5
FP	東	4
FP	北井	1
FP	野田	4
FP	北村	4
FP	小野口	2
FP	戸田	1
FP	倉前	1
FP	加藤	0

22（1）7MT（2）10

開始直後関大はゆっくりしたペースで攻撃し、サイド、ポストでよくチャンスを摑んでいたが、ラインクロス、シュートミスでこのチャンスをつぶし、13分まで無得点であった。

これに対し、立教は開始後1分すぎの木野のロングシュートを皮切りに、7MTが決り、2―0。その後しばらく得点が無理なシュートなどでとまったが、10分をすぎてすぐに出た二本の速攻、さらには続いて見事なポストプレーを二本決め、15分には、6―1と5点のリードを奪った。

関大は相変らず、ユックリとしたペースで試合を続けたが、ほとんどチャンスらしいチャンスも摑めないまま、2点目を挙げたのは20分である。そのあと3点目ははじいたボールを追いかけたGKのいない無人のゴールに決め、前半にあげた得点は僅か3点。チャンスも数少く、その僅かなチャンスももう一歩のシュート力不足で生かせず、厚い立教のディフェンスの壁をどうすることもできない状態であった。

立教はその後も速攻、ポストプレーを中心として、木野、野田らで着々加点し、前半13―3と10点のリードを奪い、大勢を決っした感があった。

後半、関大の反撃が期待されたが、先手は3分、立教の小野口がとった。4分30秒、関大はすぐ返した。その後一進一退の経過を続け、関大がとれば、立大が返す、立大がとれば、関大が返すという状態が続いた。立教は15分をすぎると、木野、北村を休ませる予裕を見せた。この時、立大のコンビに乱れが見られ、パスミス、遅手間の意志の疎通を欠くことなど種々あったが、関大はこれにつけこめず、かえって逆に、1点2点と点を開かれていく始末。ルーズボールにしても、ほとんどを立教に拾われていた。終了前30秒に7MTをきめやっと二ケタの得点にこぎつけ、一ケタの得点になることをまぬがれた。

点差こそ開いたが、立教のできは必ずしも良くなく、ノーマークになりながら、キーパーとキャッチボールをする。7MTもキーパーにあてるなどの攻撃上のミスもあり、またパスミスなどもあったし、ディフェンス面でも必ずしも万全でなく、関大の力不足に救われている観があった。

学生のリーグの総決算というにはいささか淋しい内容の試合であった。西日本勢の奮起をのぞむとともに、立教大も覇者らしく、よりよい試合をしてほしかった。

この試合の前に同じ場所で、関東学連の送別試合が行なわれた。四年生と二・三年生の親善試合であった。このような試合がシーズンがおわり、ホットしたところで行なわれるのは、好企画であったといえよう。毎年恒例としていきたいものだ。（藤本）

立教、地力示して連勝

中京大の善戦及ばず

第11回東日本学生選手権（全日本学生王座東日本予選）は11月19日金沢市の石川県営体育館に4学連秋の勝者が集まり、トーナメントで行われ、地力にまさる立教（関東）が中京大（東海）の食い下りをふり切って2年連続優勝した。立教の全日本学生王座出場は2年連続3回目。

▽1回戦（＝準決勝）

中京大（東海）31（16―4、15―10）14 富山大（北信越）

立教大（関東）28（15―7、13―8）15 東北大（東北・北海道）

▽決勝

立教大 25（11―9、14―11）20 中京大

	【立教】	得
GK	川口	0
GK	天野	0
FP	木野	5
FP	東	3
FP	北井	2
FP	野田	8
FP	北村	4
FP	小野口	2
FP	戸田	0
FP	倉前	1
FP	加藤	0

	【中京】	得
GK	有川	0
GK	戸田	0
FP	鈴木	8
FP	柳沢	0
FP	黒川	6
FP	高見	3
FP	北川	2
FP	杉本	1
FP	平松	0
FP	杉山	0
FP	吉田	0

（主審　勝）

20（2）7MT（3）25

○…予想どおり立教―中京大の決勝。立教はつねに先手をとったものの、中京大の粘りにあって一気に点差を開くことができず、後半3分には11―11と追いつかれた。一進一退のあと、立教は野田の活躍を中心に連続5点をあげて16分20―14とはなし、ようやく勝負のメドをつけた。14点を叩きだした中京大鈴木―黒川のコンビの好技は定評ある立教勢をしのぐものだった。

関大、山口大降す

第8回西日本学生王座決定戦（全日本学生王座西日本予選）は11月13日、大阪中央体育館で関大（関西）―山口大（中四国）の初顔合せで行われ、関大が食い下る山口大を前半で引きはなし快勝、初優勝した。関西学連代表の全日本学生王座出場は20年連続。

関西大（関西）23（10―3、13―4）7 山口大（中四国）

	【関大】	得
GK	平松	0
GK	西国	0
FP	飼沼	0
FP	馬着	4
FP	武田	0
FP	長野	4
FP	加古	1
FP	宮永	10
FP	西脇	3
FP	成田	1
FP	小川	0

	【山口】	得
GK	柴田芳	0
GK	中島	0
FP	中田	4
FP	中内	0
FP	柴田保	2
FP	一岡	0
FP	中野	0
FP	平岡	1
FP	三戸	0
FP	飯尻	0
FP	安積	0

（主審　東）

7（0）7MT（1）23

○…関大は多賀谷（主将）を負傷で欠いたが、馬着、長野、加古らの好リードから宮永が多彩なシュートを連発、時間の経過とともに点差を開いた。守ってもGK平松の堅守を中心にシャープな動きを見せた。山口大は中田以外に決な手がなく、善戦むなしかった。

関大、宿願の「秋季優勝」成る

～中四国は久々に山口大が勝つ～

関東……立教、東海は中京大男女

秋の学生リーグ戦は10月14日北海道で開かれた東北、北海道選手権を皮切りに、6学連が各地で熱戦を展開、全日本学生王座に挑む優勝校を争った。
各地の記録は次の通り

東北大、東北学院大を破る

東北・北海道

東北・北海道学生秋季リーグ（第12回東北・北海道学生選手権）は10月14、15の両日札幌の北海道大学体育館に5大学が参加して行われた。

その結果、緒戦で春季優勝の東北学院大を降した東北大が他の試合も順当に勝って全勝、昭和37年秋以来2回目の優勝を飾った。

東北大 21－12 東北学院大
北海道大 23－12 北海道教大
岩手大 20－14 北海道大
東北大 29－14 北海道教大
東北学院大 27－14 岩手大
東北大 23－13 北海道大
岩手大 27－11 北海道教大
東北学院大 19－11 北海道大
東北大 27－7 岩手大
東北学院大 34－11 北海道教大

【順位】①東北大4戦全勝②東北学院大3勝1敗③岩手大2勝2敗④北海道大1勝3敗⑤北海道教育大釧路分校4戦全敗

▼おわび 前号32頁で釧路教育大としましたのは北海道教育大釧路分校の誤りでした。おわびして訂正します。

日体大女子61連勝（対学生）

関東

関東学生秋季リーグは10月14日から11月5日まで東京・駒沢球技場で開かれた。

男子1部（8校）は予想通り立教、日体大、芝浦工大、東京教大の4校が無きずで前半戦を終わり地力にまさる立教が3校の食い下りを許しながらも全勝、4シーズン連続9回目の優勝を飾った。2部（7校）は充実めざましい日大が宿願をはたして初優勝、3部（7校）は防衛大が全勝優勝した。女子は常勝日体大が、東女体大をふり切って13シーズン連続17回目の優勝をとげ、昭和36年秋以来の対学生連続記録を「61」に伸ばした。

▽男子1部
立教大 18（10－7 8－4）11 明治大
日体大 24（13－8 11－11）19 法政大
芝浦工大 27（11－10 16－9）19 早稲田大
東京教大 19（12－9 7－6）15 中央大
東京教大 29（13－9 16－6）15 早稲田大
芝浦工大 29（13－12 16－4）16 中央大
日体大 25（12－4 13－2）6 明治大
日体大 18（9－4 9－8）12 中央大
東京教大 27（14－10 13－8）18 法政大
立教大 20（13－7 7－6）13 早稲田大
芝浦工大 29（15－8 14－9）17 明治大
芝浦工大 24（14－6 10－9）15 法政大
日体大 28（16－7 12－3）10 早稲田大
東京教大 21（7－9 14－2）11 明治大
立教大 23（16－8 7－10）18 中央大
立教大 26（12－8 14－3）11 法政大
立教大 13（5－8 8－2）10 東京教大
中大 19（5－9 14－3）12 明治大
芝浦工大 21（10－6 11－12）18 日体大
法政大 21（2－1 3－0：2－2 0－0：9－8 5－6）17 早稲田大
明治大 19（8－4 11－7）11 法政大
早稲田大 27（17－7 10－8）15 中大
芝浦工大 20（11－8 9－6）14 東京教大
立教大 17（8－6 9－10）16 日体大
法政大 21（7－8 14－3）11 中大
明治大 15（9－8 6－4）12 早稲田大
日体大 19（12－7 7－7）14 東京教大
立教大 22（12－8 10－9）17 芝浦工大

得	【芝浦】		【立教】	得
0	山村	GK	川口	0
			天野	0
0	竹内	PF	木野	8
5	明石		東	1
7	近森		北井	3
2	小林		野田	5
0	秦		北村	4
2	山田		小野口	1
1	高鍬	（主審 安藤）	戸田	0
0	村上		倉前	0
0	吉村		加藤	0

17（3）7MT（2）22

▽7・8位決定戦
早稲田大 19（12－5 7－8）13 中央大

▽男子2部
慶応大 18－14 明星大
日大 22－9 東大
順天堂大 22－11 武蔵工大
順天堂大 16－13 国士館大
日大 14－13 明星大
慶応大 28－14 東大
明星大 17－9 武蔵工大
国士館大 13－6 東大
慶応大 21－17 順天堂大
武蔵工大 13－2 東大
日大 17－10 順天堂大
国士館大 17－16 明星大
明星大 16－12 東大
国士館大 18－16 慶応大
日大 25－14 武蔵工大
順天堂大 16－17 明星大
国士館大 25－12 武蔵工大
日大 22－16 慶応大
日大 17（10－4 7－5）9 国士館大
武蔵工大 20－19 慶応大
順天堂大 15－5 東大

【順位】①日大6戦全勝②国士館大・順天堂大4勝2敗④慶応大3勝3敗⑤武蔵工大・明星大2勝4敗⑦東大6戦6敗

▽男子3部
茨城大 24－7 東京理科大
防衛大 38－8 千葉工大
関東学院大 15－14 上智大
東京学芸大 27－5 東京理科大

関東学院大 22－12 千葉工大
茨城大 17－11 上智大
東京学芸大 26－11 上智大
防衛大 36－3 東京理科大
茨城大 25－8 千葉工大
関東学院大 16－12 東京理科大
東京学芸大 20－13 千葉工大
防衛大 25－13 上智大
上智大 24－16 千葉工大
防衛大 15－10 東京学芸大
関東学院大 19－16 茨城大
東京学芸大 20－9 関東学院大
上智大 20－15 東京理科大
防衛大 26－14 茨城大
東京理科大 14－13 千葉工大
防衛大 27－8 関東学院大
東京学芸大 25－14 茨城大

【順位】①防衛大6戦全勝②東京学芸大5勝1敗③関東学院大4勝2敗④茨城大3勝3敗⑤上智大2勝4敗⑥東京理科大1勝5敗⑦千葉工大6敗

▽女子
日体大 20（9－1、11－1）2 日女体大
東女体大 18（9－3、9－0）3 国士館大
日女体大 12（6－2、6－0）2 東京学芸大
日体大 11（7－2、4－5）7 東女体大

【日体】	得		【東女】	得
小野	0	GK	千明	0
中村	0	GK	阿久沢	0
北口	4	FP	岡本	0
強矢	0	FP	熊谷	1
津熊	0	FP	浅見	1
石井	2	FP	川端	0
川口	0	FP	中島	3
隈	3	FP	大谷	2
立林	0	FP	大竹	0
沢谷	2	FP	谷口	0
中村	0	FP	沢辺	0

（主審 藤本）

7（0）7MT（1）11

日女体大 15（6－0、9－0）0 国士館大
東女体大 11（4－1、7－2）3 日女体大
東京学芸大 3（0－1、3－0）1 国士館大
日体大 25（13－0、12－0）0 国士館大
東女体大 24（11－2、13－0）2 東京学芸大
日体大 13（3－2、10－1）3 東京学芸大

【順位】①日体大4戦全勝②東女体大3勝1敗③日女体大2勝2敗④東京学芸大1勝3敗⑤国士館大4敗。

▽男子1・2部入れ替え戦（11月7日・駒沢）
中央大（1部）17（9－3、8－8）11 日大（2部）
中大は1部に残留

▽同2、3部入れ替え戦
防衛大（3部）17（11－4、6－1）5 東大（2部）
防衛大はシーズンぶりに2部へ復帰、東大の3部転落は初めて

北信越

北信越学生秋季リーグ戦は10月28、29日金沢大体育館に新加盟の福井大、本州大（長野）をふくむ5校により行われた。

優勝は富山大が最終戦でダークホース・福井大と引き合けたが、他の3試合に大差で勝ち4シーズン連続5回目の優勝を飾った。

福井大は緒戦で金沢大に惜敗したのがひびき「新加盟初優勝」の夢はならなかった。

金沢大 19－17 福井大
本州大 16－9 金沢美工大
富山大 30－16 金沢大
福井大 36－10 本州大
富山大 28－14 金沢美工大
金沢大 15－12 本州大
福井大 31－9 金沢美工大
富山大 19－8 本州大
金沢美工大 15－12 金沢大
富山大 17（分）17 福井大

【順位】①富山大3勝1分②福井大2勝1敗1分③金沢大2勝2敗④本州大1勝3敗（得点率〇・三六）⑤金沢美術大1勝3敗（〇・三五）

▼おわび 前号32頁で北信越学連に信州大が新加盟するとしましたが本州大の誤りでした。お詫びして訂正します。

東海

名大に春の精彩なし

東海学生秋季リーグ戦は10月28日名古屋・天神山ハンドボール場で開幕、11月11日まで1部6校、2部8校、女子3校が参加して展開された。男子1部は予想通り名大と中京大が全勝で対決、名大に春ほどの精彩がなく前半で勝負が決まり中京大は2シーズンぶり15回目の優勝を飾った。2部は中部工大が初優勝、1部入りした。女子は中京大が3シーズン連続4回目の優勝。

▽男子1部
名大 20（9－4、11－2）6 南山大
中京大 30（14－7、16－3）10 名城大
愛知教大 18（9－9、9－7）16 岐阜大
中京大 40（23－5、17－5）10 愛知教大
名大 17（6－4、11－6）10 名城大
南山大 25（10－4、15－6）10 岐阜大
中京大 25（13－5、12－3）8 南山大
名大 20（11－9、9－8）17 岐阜大
愛知教大 19（13－7、6－8）15 名城大
名大 23（11－8、12－5）13 愛知教大
中京大 31（17－5、14－3）8 岐阜大
名城大 16（13－6、3－5）11 南山大
名城大 23（14－6、9－6）12 岐阜大
愛知教大 19（8－9、11－7）16 南山大
中京大 27（11－10、16－7）17 名大

【順位】①中京大5戦全勝③名大4勝1敗②愛知教大3勝2敗④名城大2勝3敗⑤南山大1勝4敗⑥岐阜大5敗

▽男子2部
中部工大 27－10 大同工大
愛知大 17－9 県立三重大
三重大 14－11 滋賀大
名工大 27－11 静岡大
愛知大 22－7 滋賀大
静岡大 18－11 大同工大
中部工大 18－9 三重大
中部工大 20－7 愛知大
名工大 25－9 県立三重大
静岡大 24－23 県立三重大
三重大 28－19 大同工大
中部工大 24－8 滋賀大
名工大 19－14 三重大
県立三重大 22－17 大同工大
中部工大 25－8 県立三重大
三重大 18－13 静岡大
名工大 14－10 愛知大
愛知大 20－17 静岡大
名工大 34－15 滋賀大
滋賀大 23（分）23 大同工大
名工大 14－13 大同工大
県立三重大 28－18 滋賀大
中部工大 24－6 静岡大
愛知大 19－14 三重大
三重大 33－19 県立三重大
愛知大 25－14 大同工大
静岡大 20－6 滋賀大
中部工大 15－10 名工大

【順位】①中部工大7戦全勝②名工大6勝1敗③愛知大5勝2敗④三重大4勝3敗⑤静岡大⑥県立三重大⑦大同工大⑧滋賀大

▽女子
中京女大 10（6－1、4－0）1 松阪女大
中京大 20（9－0、11－0）0 松阪女大

中京大 9（2—1、7—4）5 中京女大

同大、5連ぱはばまる

関西

関西学生秋季リーグ戦は10月20日から11月7日まで京都市立体育館、大阪中央体育館などで1部6校、2部6校、3部8校が参加して開かれた。

1部は6校が実力伯仲の激戦を演じた結果、関西大が最終戦で同志社大を1点差で破り、昭和23年秋に加盟以来宿願の秋季リーグ初優勝をとげた。関西学生リーグでの優勝は昭和38年春以来9シーズンぶり3回目。敗れた同大は5シーズン連続優勝を阻まれ昭和40年春季第6日（関大戦）以来つづけていた関西学生リーグでの連勝記録も32でストップした。2部は桃山学院大が2シーズン連続優勝（4回目）3部は大外大が首位。

▽1部

大阪経大 14（5—7、9—6）13 甲南大

同志社大 22（7—7、15—3）10 京大

大阪経大 13（7—8、6—5）13 京大（引き分け）

関西大 15（4—0、11—6）6 関学

同志社大 11（5—3、6—6）9 関学

関西大 30（8—6、22—3）9 甲南大

同志社大 23（14—3、9—5）8 甲南大

関西大 19（13—6、6—6）12 京大

関学 27（8—6、19—9）15 大阪経大

京大 13（7—5、6—7）12 甲南大

関学 12（8—2、4—4）6 甲南大

関西大 14（7—6、7—4）10 大阪経大

同志社大 29（17—5、12—4）9 大阪経大

関学 22（10—5、12—8）13 京大

関西大 8（4—4、4—3）7 同志社大

▽2部

桃山学院 32—7 立命館

大阪体大 23—11 神戸大

大阪大 16—13 大阪府大

桃山学院 18—10 神戸大

大阪府大 14—10 大阪体大

大阪大 20—7 立命館

大阪体大 25—11 立命館

神戸大 9—8 大阪大

大阪大 22—13 大阪体大

桃山学院 22—13 大阪府大

桃山学院 19（8—7、11—9）16 大阪大

大阪府大 17—9 神戸大

大阪府大 14—11 立命館

神戸大 16—13 立命館

大阪体大 13—12 桃山学院

【順位】①桃山学院大4勝1敗②大阪大3勝2敗（得黒率〇・五七）③大阪体育大3勝2敗（〇・五五）④大阪府立大3勝2敗（〇・五一）⑤神戸大2勝3敗⑥立命館大5戦5敗

▽3部

大阪工大 17—14 大阪教大

大阪市大 27—7 大阪薬科大

京都教大 32—12 和歌山大

大阪外語大 28—11 大阪歯科大

大阪外語大 30—14 和歌山大

京都教大 15—14 大阪歯科大

大阪市大 20—12 大阪工大

大阪薬科大 18—15 大阪教大

大阪外語大 33—7 大阪薬科大

大阪教大 17（分）17 和歌山大

京都教大 26—17 大阪工大

大阪市大 18—11 大阪歯科大

京都教大 23—9 大阪薬科大

大阪外語大 30—10 大阪工大

大阪市大 26—10 和歌山大

大阪歯科大 16—15 大阪教大

大阪外語大 25—9 大阪教大

和歌山大 22（分）22 大阪薬科大

大阪歯科大 22—16 大阪工大

京都教大 15—6 大阪市大

京都教大 16—14 大阪教大

大阪工大 20—17 和歌山大

大阪歯科大 23—15 大阪薬科大

大阪外語大 25—13 大阪市大

大阪工大 24—22 大阪薬科大

和歌山大 25—15 大阪歯科大

大阪外語大 24—17 京都教大

大阪教大 19—11 大阪市大

【順位】①大阪外語大7戦全勝②京都教育大6勝1敗③大阪市立大4勝3敗④大阪歯科大3勝4敗（得点率〇・六〇）⑤四大阪工業大3勝4敗（〇・四四）⑥和歌山大1勝4敗2分⑦大阪教育大1勝5敗1分（〇・四六）⑧大阪薬科大1勝5敗1分（〇・三七）

▽1・2部入れ替え戦

桃山学院（2部）11（1—5、7—4）9 甲南大（1部）

桃山学院大は3シーズンぶりに1部復帰。甲南大の2部転落は昭和34年秋季以来のこと。

▽2・3部入れ替え戦

立命館（2部）15（6—8、9—6）14 大阪外語大（3部）

岡山大の連勝成らず

中四国

中四国学生秋季リーグ戦は10月28、29日広島大福山分校球技場に1・2部各5校が参加した。

1部は久々に山口大が全勝、優勝をかけた岡山大戦では立ちあがり0—2の劣勢をはね返し、前半なかばから試合の主導権を握り終盤の岡山大の反撃を封じて15—12で制勝した。山口大の優勝は昭和35年秋の中四国学生選手権以来。

2部は松山商大が全勝優勝。

▽1部

山口大 22（5—4、17—9）13 広島大

広島商大 10（5—5、5—5）10 広大福山（引き分け）

岡山大 25（14—6、11—7）13 広島大

山口大 21（8—9、13—10）19 広大福山

岡山大 16（9—7、7—5）12 広島商大

山口大 11（6—4、5—3）7 広島商大

広大福山 25（9—5、16—6）11 広島大

山口大 15（9—6、6—6）12 岡山大

広島商大 26（15—5、10—9）14 広島大

岡山大 22（7—9、15—5）14 広大福山

【順位】①山口大4戦全勝②岡山大3勝1敗③広島商大1勝2敗1分（得点率〇・五一六）④広島大福山1勝2敗1分（得点率〇・五一四）⑤広島大4敗

▽2部

松山商大 24—19 愛媛大

近大工学部 11—4 山口大工学部

松山商大 23—14 広島工大

愛媛大 18—10 山口大工学部

近大工学部 12—10 愛媛大

広島工大 18—12 山口大工学部

松山商大 11—8 近大工学部

広島工大 23—7 愛媛大

松山商大 25—12 山口大工学部

広島工大 15—13 近大工学部

【順位】①松山商大4戦全勝②広島工大3勝1敗③近畿大工学部2勝2敗④愛媛大1勝3敗⑤山口大工学部4敗

球界パトロール

底辺拡充に二つの催し

体育の日に「少年ハンドボール教室」

東京

○…10月10日「体育の日」は全国で各種の催しが行われたが東京都では、駒沢オリンピック公園が一般都民に開放され、美濃部都知事も参加し、親子づれ、青少年男女などあらゆる階層が集って秋の一日をスポーツに親しんだ。

この行事の中で「スポーツ少年団教室」が実施され、ハンドボールもサッカー、ソフトボール、軟式野球の3種目と並んで約40名の少年少女たちに指導が行われた。

○…今夏のスポーツ少年団全国キャンプ（本誌46号詳報）でも初めて採りいれられるなど、このところハンドボールの年少スポーツ層への普及は、内外から多くの期待がかけられているが、この教室でも基礎練習の方法、ゲームなどに汗を流しながら、東京都協会の松田利秋、田中秀夫、渡辺慶寿、山野圭三、島田正士、安藤純光、近藤金博、佐野和夫の各氏と東星学園小教諭・熊谷美和子さんら講師陣の指導に子供たちは熱心な勉強ぶりだった。

○…なかでも、古川博雄先生に引卒されて朝6時に学校を出てこの行事に参加したという東京・町田市相原小学校「桜スポーツ少年団」の子供たちは、はじめて親しむハンドボールに元気いっぱい。

中学校のお姉さんたちと簡易ゲームを行ない、点をとるたびにおどりあがって喜ぶ姿は印象的で体育の日にふさわしい健康にあふれた和やかな風景だった。

約二時間の指導のあと、東京重機と日体大女子の模範ゲームが行なわれたのも、ハンドボールの普及には大いに効果があったようだ。○…予定より参加人数は減ったというものの、指導の先生がたは『はじめてやる子供たちがこんなにまで懸命になるとは思わなかった。私たち関係者がサッカーに負けず、みんなでもっと熱意をもって少年ハンドボール教室を実施すれば、いっそうよい成果があげられるだろう』と反省にあわせ、将来へ大きな夢を抱いていた（K・S）



ハンドボールに興ずる少年少女達

30才以上による選手権

往年の名手も復活

名古屋

○…学校を卒業するとあれほど親しんだハンドボールをすぐ忘れてしまう――ましてやトシをとればとるほどハンドボールから遠ざかってしまう。遠ざかってしまうのはしかたがないとしても、他のスポーツに〝転向〟してしまうのはもったいない。

なんとかしてオールドボーイたちを再びコートに連れもどそうとこれまでにも、各地で〝OB大会〟が企画され、実行されて来たがパッとした成果をあげぬうちにいつしか消えてしまっている。

○…そのような折、愛知協会の有志が会長の小杉仁造氏（日本協会副会長）寄贈のカップをめぐる30才以上のメンバーでかためたチームによる本格的（?）選手権大会を計画、10月31日・11月1日の2日間名古屋の金山体育館に4チームを集めて開催した。

集った選手のなかには、最近10年以上ボールを握ったことがなかったという栗脇嶷さん（日本協会理事・愛知協会理事長）、宇津野年一さん（日本協会技術委員）、鬼頭一一さんらの40才代組をはじめ、かっての全日本選手・浅野克彦、斎藤一さんなどのほか今春東海学生リーグで9年ぶりに優勝した名古屋大のOB連中からも現役に負けじと太田耕治、連部信康、関口昇（旧姓近藤、東海学連初代委員長）田中滋章さんら第一期黄金時代の主力が顔を揃えた。田中さん（愛知実業団連盟理事長）を除いては、ほとんど球界とは縁遠くなった人で太田さんなどは弁護士として多忙な仕事のあいまを見つけての参加。

○…往年、ライバル同士としてしのぎをけずった仲も10年、20年とたつてみると、楽しい思い出ばなしばかり。『相変らずうまいねエ』などと相手をほめて枯れたところを見せる風景も二、三にとどまらず、和気あいあいのうち大会は進められ、『来年は誰々を呼んで補強しよう』とか『あいつも誘おう』などと再会が今から待ち遠しそうだった。

○…この大会でもう一つ注目されたのは、運営一切を30才以下の若手で進めたことだ。

プレイヤーは30才以上、役員は30才以下とはなんと味のある企画ではないか。

オールドボーイたちのお遊びになり勝ちなこのような催しのなかで将来の役員の養成を心がけるあたりに、王国・愛知の面目躍如たるものがある。

ともあれかつてのプレイヤーたちに、もういちど〝青春〟を味わってもらい、球界拡充の一環にもしようという一石二鳥のこのアイディアが、愛知協会を手はじめに、全国に波及して欲しいと願うのは、記者ばかりではあるまい（X）

▽**第1回小杉杯争奪オーバー・サーティ・リーグ**（10月31日・11月1日、名古屋金山体育館）

球友会19―14愛知教員ク、瑞陵ク17―12名大ク、愛知教員ク18―7瑞陵ク、名大ク14―12球友会、球友会不戦勝瑞陵ク　名大ク14―10愛知教員ク

【順位】①名大ク・球友会③愛知教員ク・瑞陵ク

球界パトロール

地方に発展する普及のあゆみ

未経験の選手によるチーム
—秋田下北手農協—

10月に浦和市で開かれた第22回国民体育大会一般男子の部に異色のチームが登場した。

それは（東北ブロック）を代表して、この大会に臨んだ秋田市農協下北手出張所チームである。名称も従来のチーム名称から云えば特異に属するかも知れないが異色というのは名称のことではない。

このチームには、生徒・学生の時にハンドボールをやったことのある選手は一人もいないということがこのチームを異色のチームとしている。

下北手というのは秋田市内にある農業を主体とした部落の名称であり、このチームに属している選手はすべてこの部落の青年たちからなっている。農業に従事するかたわら、時間を見つけてはハンドボールをやる。だから練習は昼間という訳にはいかない。朝、耕作にいく前の時間の前に、土地の中学校のグラングで、あるいは、夕方、野良仕事のおわったあと、秋田和洋高校の体育館を使って、練習をする。正に典形的な意味でのクラブチームの形態をとっているのである。同じ職場で、まとまった練習をやれる実業団チームとは全っく異った存在である。

ハンドボールを愛好する人達がそれぞれの住む地区を基礎にしてチームを作り、しかもこのチームを作るまで、全くハンドボールをやったことがない人達ばかりで、そのチームが国体に出場するまでに成長したということは、ハンドボール界にとって誠に喜ぶべきことではないだろうか。

何が機縁となってこのようなチームができたのであろうか。昨年の秋田和洋高校の全国制覇、これである。秋田和洋高校は下北手で合宿をやり、全国制覇をなしとげた。このことが下北手の青年たちを自分達も一つハンドボールのチームを作ろうというキッカケになった。

それから、コーチもなく、文字通り苦労して、試合をやり、試合がおわれば、その試合の批判を県協会関係者に求め、良い点はのばし、悪い点は改め、次の試合に臨むということを繰り返し、この異色のチームを作り出した。

現在の日本のハンドボール界の主体は学生・実業団であり、クラブチームはその影を薄くしつつある。その影の薄くなりつつあるクラブチームも主体となっているのは、ある高校もしくは大学のＯＢによって固められており、本当の意味でのクラブチームはほとんど見られない。このような事であるから、クラブチームの選手はいわゆる経験者ばかりである。こういったハンドボール界の一般的風潮の中で真にクラブチームと云えるチームが未経験の選手ばかりで作られ、育っているのは、本当にすばらしいという一語につきる。（Ｆ）

家族ぐるみの歓待に感激
成功した埼玉国体の民宿

○…今年の国体で地元がいちばん頭を痛めたのは宿舎問題。

ハンドボールの行われた浦和市でも、市内の旅館を総動員したがそれでもまにあわず、大半のチームが〝民宿〟になった。

分散による民宿はチームゲームには不適当ではないかといった不安や心配の声も出ていたが、はじまってみると、族館組をうらやましがらせるほどの大歓迎をうけて各チームともたいへんな喜びようだった。

○…どこの家庭でも遠来の選手に不自由させてはいけないと、心づかいがスミズミまで行きとどき食事なども規定額をこえる出血サービス（？）というあたたかい奉仕ぶり。なによりも選手たちを喜ばせたのはグランドにまでかけつけての声援だったようだ。

○…かっぽう着すがたの奥さんやお年よりは『あの子は今日は絶対3点は入れて見せるといってましたよ』とか『夜、部屋にくだものをとどけたら、まだ今日の試合のことを話しあっているんですよ』とまるで身内のような口ぶりで『明日はあのチームと試合をするらしいから、ちょっと見て来ましょうか』という熱心なかたもあらわれてコーチを恐縮させる一幕もあった。高校女子で優勝した栃木女・細井操監督は決勝戦後、記者団の質問に『六軒の分散民宿はハンディでしたが、各家庭がストーブなどをこころよく提供して、コンディションに気を配って下さったのも勝因の一つです』と答えていたほど。

高校選手たちの間には〝浦和おかあさん〟などという言葉もはやり、今回の民宿は大成功だった。

○…勝運なく敗れたチームへの思いやりもあたたかいものであった。熊本市高（女子）のお世話になったおたくでは、敗れた日の夜、盛大な残念会を開いてくださったうえ、試合中負傷した選手が全快するまで滞在して欲しいといわれ監督の北川浩氏はすっかり感激していた。

ほとんどの家庭が帰途につく選手たちを駅まで見送り、最後まで心のかよいあった交歓がつづいていたが、『ハンドボールをしていたおかげで、人の心の暖かさを知ることができました』と話していた女子選手のことばを浦和市のみなさんに感謝の意をこめてお伝えしたい。（Ｓ）



〝浦和のおかあさん〟の拍手の中をひきあげる明星高選手


営業三課／栗田満夫

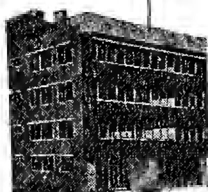
チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

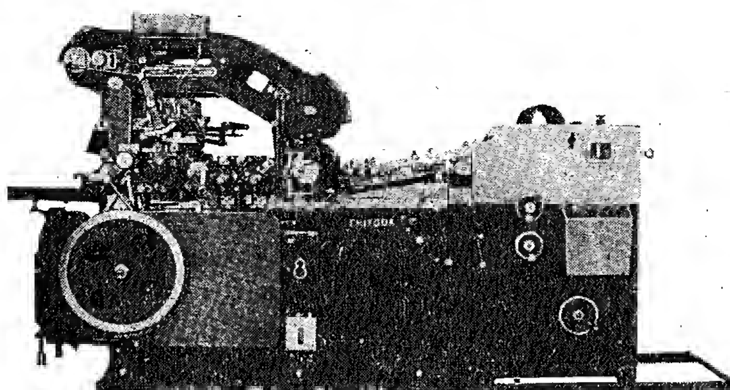
パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。


営業一課／庄司政雄

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。よい製品をつくる励みになります。


営業二課／打林行夫


本社新社屋

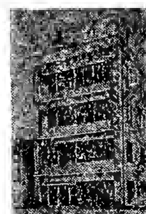


新製品 **パーフェクト** 全自動B四截凸版印刷機



千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本社	東京都千代田区神田猿楽町1－4	TEL 東京(292) 2011（代）～8
横浜支社	横浜市西区高島通り1－7	TEL神奈川(045) 44－6572・7358・7028
福岡支社	福岡市御供所町3番16号（聖福寺前）	TEL 福岡（28）3960・0153
立川工場	東京都昭島市東町1丁目1番地5号	TEL 立川(0425) 2－2470・4383
九州工場	佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）	TEL 牛津 72


横浜支社

各国ともオリンピックへ
——今夏のヨーロッパ球界から——

最近のヨーロッパ各国はオリンピックに向って、強い強化策をいっせいにとりだしていることは周知のことであろう。相手をまず知ることは必要である。ここでは、今夏のヨーロッパ各国の情勢を紹介することにしよう。

チエコスロバキア

ここでは12チームによって、国内上級リーグが開かれ、二回戦方式によって争われ、デュクラ・プラーグ、バニク・カルビナ、タトラン・プレソフ、スラビア・プラーグなどにより、優勝争いは激烈をきわめたが、デュクラ・プラーグがその中から抜けでて、18勝1敗3分の成績で優勝した。デュクラ・プラーグはビチャ、トロヤンなどの至宝を持ち、名コーチ・ケーニッヒによつて率られている。

チエコの上級リーグは1950年に始まり、それ以来続けられているが、その多くのタイトルはデュクラ・プラーグが握っている。

女子はツオラ・オルムースがスタルト・ブラティスラバの追撃をふりきり、初優勝を飾った。

スウエーデン

本年の女子の決勝戦は1966年の対決と同じ顔合せになり、リニー・リドケーピングは善戦したが、ボルトン・ストックホルムの堅城に迫ることはできなかった。試合は終了30秒前にやっと決り、ボルトンに栄冠は輝いた。

男子はMP・ストックホルムとレドベルグスリド・ゲーテボルグの対戦となり、女子同様の激戦となったが、17―16でMP・ストックホルムが初優勝を飾った。

ユーゴースラビア

ここでは14チームによって、やはり二回戦方式で男子は戦われている。メドベスカク・ザグレブ、ディナモ・パンチェボ、GRK・ザグレブをおさえ、パルチザン・ブジエロワルが18勝1敗7分で優勝した。このリーグ戦はすでに14年の歴史をもっている。

女子は昨年にひきつづき、ポドラブカ・コプリウニザが18勝1敗3分でロコモチバ・ザグレブ、ORK・ベルグラードを押え、12チーム、二回戦方式のリーグ戦の勝利を得た。

東ドイツ

男子は10チームによって争われる上級リーグがあり、SC・マグデブルグがDHfK・ライプチッヒ、SC・エンボル・ロストクを抜き、優勝した。

また各種の国際大会も開かれ、熱戦を展開した。

第三回社会主義国選手権

第三回社会主義国家選手権はルーマニア、チエコ、ソ連、東ドイツ、ハンガリー、ブルガリアから昨年の優勝チームを7月末にブタペストに集め開かれた。5日間連続して試合を行なうという強行日程の総当りリーグ戦で開かれた。前評判通り、デュクラ・プラーグと常勝ディナモ・ブカレストを破り、イオン・クンスト氏に率いられたステアウア・ブカレストの争いになり、その対戦は第4日に行なわれ、ステアウアが前半10―12の劣勢を挽回し、23―21で勝利を握ったことが特記されよう。この試合デュクラは12―6とリードしたが、その直後に退場者を出し、それから、グルイアの活躍により、得点を重ねられ、後半15分には15―15となり、すぐあとに17―15と離されてしまった。デュクラは前年のデュクラより強くなってはいたが、ステアウアがそれに勝った。きわめてレベルの高い試合であった。最優秀選手にはグルイアが、最優秀キーパーにはビチャがなった。

①ステアウア・ブカレスト　5勝
②デュクラ・プラーグ　4勝1敗
③CSKA・モスコー　3勝2敗
④ASK・V・ベルリン　2勝3敗、⑤ホンベット・ブタペスト　1勝4敗、⑥CDNA・ソフィア　5敗

タスマジヤン杯

7月初旬にベルグラードでは、ルーマニア、西ドイツ、ブルガリア、ユーゴの男子ナショナルチームを集め、大会が開かれた。

この選手権は1970年の選手権、さらにはオリンピックをめざして、多くの若手が登用された。

ユーゴが地元の強味を見せ、優勝を飾った。この大会はすでに7回開かれ、ユーゴが5回、ルーマニア、チェコが各1回のタイトルをとっている。ルーマニアはユーゴに最近は勝ったことがなく、今回も28―18で敗れ、二位にとどまった。

ザグレブ杯

これは男子のタスマジャン杯と同様、女子ナショナルチームによって争われる。参加国はハンガリー、ポーランド、ルーマニア、ユーゴであった。これまで1960年以来6回開かれており、ユーゴがここ連続3年タイトルをとっている。そのほかハンガリー、ルーマニア、ソ連が一度栄冠を握っている。今年もユーゴが、ハンガリー、ルーマニアを連破し、優勝を飾った。ユーゴが一番てこずったのは10―7のハンガリーの試合だけであろう。ユーゴ、ルーマニア、ハンガリー、ポーランドの順であった。

サイドシュートの成否は戦術にも影響

訳 藤 本 強
（日本協会常務理事）

前号は、ロングシュートを中心にして、紹介をしたが、今号では、サイドからのシュート、ポストからのシュートについて触れていくことにする。このどちらも7人制ハンドボールに特有の高度の技術を必要とする。年々守備の技術は向上し、それをしのぐべく攻撃技術、特にシュート技術は向上させなければならない。特に身長差のあるチームと対戦する場合には、この二つのシュートに活路を見出さざるをえないことが多いのは当然であろう。

2、サイドシュート

ディフェンスから離れて、またディフェンスを拡げその間から、ノーマークになりシュートをするので、この成否はゲームの進行の上に大きな影響を与える。サイドシュートは通常、左右左とか、右左とかあるいは非常なスピードでもって、左にふってから行なうことになっている。ただ単に普通に入ったのでは、何といっても狭い角度であるから、シュートの成功率はきわめて低いものになってしまう。

また狭い角度からシュートを行なうのであるから、遠くからシュートするのでなく、できるだけゴールキーパーの近くまで、ボールを離さないようにすることがシュートの成功率を高める一つの重要な条件になってくる。

投げる手の位置は攻撃角度、およびシュートする時の体の形によって、頭上から、肩から、腰の位置からもしくはアンダースローと種々の形をとることになる。

右手投げの選手がシュートをする際に注意するのは次のようなことである。周知のように攻撃側から見て、左サイド（開かれたサイドとして表現されている）と右サイド（閉されたサイドとして表現している）では、シュートフォームも非常に異っている。

イ、左サイドからのシュート

（写真1参照）

右利きの選手には、比較的シュートしやすいサイドであるが、それだけ、カットされる率も高い。

シューターはやや左に体をまげながら、右手はしっかりと体につけて、右足でふみ切り、シュートを行なう。角度が甘い場合には、反対側のコーナーの上をねらうのがもっともよい。角度がより狭い場合には、ゴールキーパーの位置、動きを良く見定めシュートするところを決める。近くのコーナーでは上下、遠くのコーナーの上下、バンドシュート、あるいは足の間というようなところをキーパーの体勢を見て、投げわける。

ロ、右サイドからのシュート

（写真2参照）

このシュートはゴールキーパーのやや前方でバンドさせ、反対側のゴールポストに当てるようにするのが一番良い。この時ボールに回転を与えることによって、ゴールポストより外をねらっても、バンドした時の回転によって、ゴールインする。

ゴールとの位置、走るスピードなどによって、いろいろなシュート体勢がとられるが、もっとも有効なのは、先号で述べた横への倒れこみシュートを応用することである。ジャンプをし、ジャンプの最高点で、体を左に曲げ、手を頭の上にもっていき、回転をかけたボールを投げる。この時も遠いコーナーへバンドシュートするのが成功率がもっとも高い。

これらのサイドシュートの時に気をつけなければいけないのは、ディフェンス選手によるカットである。ボールを最後の最後まで指でしっかり握り、こういったディフェンス側のカットには、手首を柔かくし、さけるようにして、シュートする。サイドシュートの成否はそのチームの戦術、試合を左右することをもう一度銘記しておこう。

3、ポストシュート

ゴールに一番近く、しかも中央近くからのシュートであるから、確率的にはもっとも高いシュートである。したがってディフェンス

もここからはシュートをうたせまいとする。ポストシュートはディフェンスをかわして、瞬間的にうたなければならないので、高度の技術を必要とする。

イ、跳びこみシュート

（写真3、4参照）

足はゴールエリアの外におき、自由に動けるように、柔くしておく、パスをキャッチするかしない間に、足で十分にけり、できるだけ遠くへゴールめがけて跳びこむ。体は水平になるように、手はなるべくカットされないようにする。各選手によって、違っていても構わない。選手個人個人に持味があるのである。ただ足を思いきりけるのはすべてに共通して大事なことである。ただ単にポストからシュートすることは、ディフェンスの動きがあるから、不可能な場合が多い。フェイントをかけ、その後シュートすることを練習しておかなければならない。シュートフェイント、パスフェイントなど種々のフェイントをかけて、シュートする。

遠くからのロングもしくはミドルシュートでは不可能であるが、ポストシュートの場合には、両手を自由に使えるようになっていることが肝要である。ポストシュートの場合、距離が短く、またディフェンスも接近しているので、どうしても両手で投げられるようにしておかなければならない。

非常に上手な選手は二人のディフェンスの間から、シュートをうつことができる。それには多くの練習が必要となる。このような場合、レフェリーは一応アドバンテージを見てくれるし、うてなかった場合には、ディフェンスの反則をとってくれる。

ロ、バックハンドシュート

バックハンドシュートにも、手を頭上にあげ、シュートするもの手を腰の付近に置き、腰の回転を伴いながら、シュートするもの、手を下にもっていきそこからシュートするものがある。

第一のものは相手が近い時に使用する。第二のものはもっとも多く使われ、水平のバックハンドシュートと呼ばれている。手のひらはゴールに向ける。このシュートは相手を見ずに行なうので、相手にあたる危険がきわめて大きい。このシュートはフリースローの時にも使用する。第三のものは手を下にもっていき、手のひらをゴールに向けるようにする。このシュートはバックハンドシュートの中では、もっともすばやく行えるものである。審判はこれらのバックハンドシュートが危険にならないように注意していなければならない。

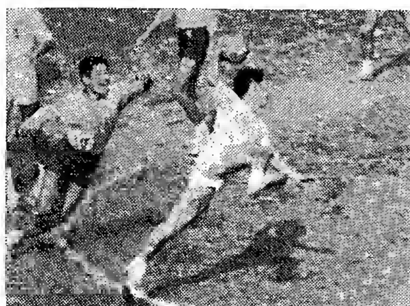
ハ、ピボットシュート

ゴールに背を向け、パスをキャッチした時に使う。まずシュートしようとする反対側に行くフェイントをかけ、その後にすばやくシュートに入る。このシュートも実戦的なシュートである。

絶対的に有利な位置のシュートであるから、十分に練習し、どのような条件の下でも、シュートが必ず得点になるようにしておかなければならない。



1



2



3



4

ミュンヘンに総力向けよ

協会機構の再検討急げ

○…鈴木会長、荒川理事長をはじめとする新執行陣がスタートして半年がたった。

日独対抗に備えたナショナルチームの編成、全国公認コーチ講習会、スポーツ少年団全国大会参加など活潑な動きをみせ、悲願の中学指導要領への復活もかなり明かるい見通しを得たと伝えられる。スタッフの努力を大いに認めたい。

ところで、球界の拡大化、国際化で協会規約が改正されたのは1年前のことだが、いちだんの飛躍のために協会機構の再検討を提案したい。

○…突拍子もない云いかただが日本ハンドボール界は間もなく〝非常時体制〟に入る、と思う。ミュンヘン・オリンピックがその目ざす「相手」であることは多言を要すまい。

しかし、それを成就させるには現行の機構では不満だ。

審判部をふくんだ技術指導分野（強化対策本部）と普及部をふくんだ事務分野をはっきり二分し、トップレベル強化のために確立した責任体制を布きミュンヘンへ照準を向けるべきなのだ。極言かも知れぬが〝ミュンヘン〟の前には、国内の雑件は小さなことでしかない。

各種大会の主催・管理も当分のあいだ各組織に全面的にまかせ、日本協会は、ナショナルチームのセレクション・コミティのメンバーが顔を出すぐらいでよかろう。

○…国際試合はもちろん、国内大会のうちいくつかも、トップレベルを引きあげるために模様替えしたらいい。

執行陣の誰にあっても「オリンピック」というがさて具体的な話となると何から手をつけたら、といった表情だ。ムリもないとは思うが、そうこうしているうちに時間はたつばかりだ。

誰かが〝独走〟すべきであり、そしてそれは鈴木会長と荒川理事長をおいて他にいないのである。

○…〝独走〟を許して苦い経験を味わったばかりの球界だが〝暴走〟にならないように周囲が協力し、理解すれば、〝独走〟こそ現状の日本ハンドボール界躍進の特効薬だ。

各パートが理想をかかげ、歩んで行く姿は、たしかに望ましい形だが、八方に枝が伸びすぎて、どこに大幹があるのかを見失うことになりかねない。

短期決戦へ。鈴木会長―荒川理事長コンビの勇気ある決断を待望し、球界の歩むべき一本の道を指示して欲しい。

もういちど念を押そう。ミュンヘンまであと5年。その予選（男子）まであと2年強しか残されていないのである（杉山茂）

安泰ムード打ちゃぶる

～今秋の学生界から～

学連運営の積極化期待

▽…今秋の学生界の大きな特色は春につづいて優勝を飾ったのが、わずかに関東の立教と北信越の富山大だけということである。

最近の学生リーグは勝者が固定化、安泰ムードで迫力がなくなったなどという風評に対し、各校が大いに奮起したあらわれとみてよいだろう。喜ばしい傾向だ。

技術的にも向上のあとがみられ攻防両面で多彩なプレーを消化、球界のトップゾーンとしての成長を名実ともに遂げている。

▽…ミュンヘン・オリンピックまであと5年あるが、巷間伝えられるように1970年の世界選手権（フランス）に出場権がかけられるとなれば3年のゆう予を残すだけで、その時の主力は今の1・2年生ということになろう。

かってないほど学生界に課せられた任務は重く安閑としてはいられないのである。

▽…話は横道にそれるが埼玉国体でいつになく学生界の若手ＯＢが社会人として各チームから数多く出場しているのを見てたのもしく思った。

実業団球界の発展などが助成しているわけだろうが、若い先輩がいぜんグランドに残っていることはどれだけ現役を力づけるか判からない。ミュンヘンを目ざすには現役の力だけで成るものではなくＯＢや役員の情熱も不可欠なのである。

▽…北信越に新たな2校が加ったのをはじめ各学連とも加盟校増加に明かるい見通しがあるのも嬉しい。関東は来季は一挙に5校増え4部が発足すると伝えられている。競技人口の増加がレベル向上につながることは多言を要さない。

高体連や実連とはりあう必要はいっこうにないが、学連の運営ももっと積極化、活潑化してよい時期に来ている。

▽…女子は相変らず関東（5校）、東海（3校）が活動しているだけで情熱は買えるが水準は残念ながら低い。

関東リーグの最終日、西敏郎会長はズバリ苦言を呈したあと、一日もはやく実業団上位と対等な力をつけて欲しいと励ました。来シーズンの躍進を待ちたい。

おわりに、今秋をもってグランドを去った全国各校の4年生諸君の在学中の健斗を心からねぎらいたいと思う（駒沢球治郎）

各地の記録（寄稿歓迎）

日体大、大崎を破る
女子は三菱が2連勝

第5回東京選手権は11月16日から4日間、東京体育館に男子33、女子8チームが参加して開かれた。

トップチームの激突でみごたえのある試合がつづいたが、男子は12月の全日本選抜にもれた日体大が闘志あふれた試合ぶりで、大崎電気の3連勝を阻み初優勝した。ベストエイトにくいこんだ深川会の健闘も賞されてよい。立大は東日本学生（金沢）出場のため棄権した。

女子は予想通り三菱鉛筆―大崎電気の決勝となり、三菱が後半蓮見の活躍で逆転、2連勝した。

なお、別掲のとおり、一般女子の準決勝以降で初めて25分ハーフを採用、一般女子、高校男女の計6試合に復審制が実施された。

▽男子準々決勝

大崎電気 19—10 法友会
芝浦工大 23—11 法大
桜友会 35—26 深川会
日体大 29—8 全日体大

▽同準決勝

大崎電気 27（14—10、13—7）17 芝浦工大
日体大 56（36—7、20—7）14 桜友会

▽同決勝

日体大 19（9—5、10—7）12 大崎電気

▽女子準々決勝

東女体大 18—5 日女体大
三菱鉛筆 15—3 東京ク
大崎電気 18—4 日体大B
日体大A 12—9 東京重機

▽同準決勝

三菱鉛筆 21（12—8、9—0）8 東女体大
大崎電気 18（8—2、10—2）4 日体大A

▽同決勝

三菱鉛筆 9（6—2、3—5）7 大崎電気

▽優秀選手【男】GK本田、FP大宮、樫塚（以上日体大）、近藤、竹野、北村（以上大崎電気）、近森（芝浦工大）。

【女】GK吉田、FP三井田、蓮見（以上三菱鉛筆）、早川、鈴木（以上大崎電気）北口（日体大）

▽高校男子決勝

神代 14（7—4、7—1）5 明星

▽高校女子決勝

小平 4（3—2、1—1）3 佼成学園

▽中学男子決勝

荏原二 15—12 深川四

▽中学女子決勝

深川五 12—4 横山

九州産大、西南に勝つ

初の福岡6大学秋季リーグ戦は10月29、11月3、5日の3日間西南大グランドなどで行なわれ、九州産業大が西部1位の西南学院大に逆転勝ちして優勝を飾った。

西南学院 26—5 東海大
福岡教大 19—15 九州大
九州産業大 22—10 福岡工大
東海大 19（分）19 福岡教大
西南学院 6—5 九州大
九州大 14—11 東海大
福岡工大 23—14 福岡教大
九州産業大 10—9 西南学院
福岡工大 16—9 東海大
九州産業大 15—14 九州大
九州産業大 39—9 東海大
西南学院 33—6 福岡教大
九州大 14—12 福岡工大
九州産業大 30—7 福岡教大
西南学院 27—4 福岡工大

【順位】①九州産業大5戦全勝②西南学院大4勝1敗③九州大・福岡工大2勝3敗⑤福岡教大1勝3敗1分⑥東海大4敗1分

鶴崎工、大分東が首位

▼大分県高校新人戦（11月 国東農）

▽男子決勝リーグ

鶴崎工 34—3 国東
大分商 13—3 国東農
鶴崎工 17—7 大分東
国東 9—3 国東農
大分東 11—10 大分商
鶴崎工 27—2 国東農
大分商 13—4 国東
大分東 28—2 国東農
鶴崎工 15—4 大分商
大分東 24—5 国東

【順位】①鶴崎工②大分東③大分商④国東⑤国東農

▽女子決勝リーグ

青山 9—6 玖珠
大分東 19—3 国東農

複審制と25分ハーフ（女）
〜東京選手権で試験採用〜

11月16日から東京体育館で開かれた第5回東京選手権で、初めて「複審制」と「女子25分ハーフ」が試験的に採用された。

複審制

一般女、高校男女の各2試合に採用され「なかなかいい」という声が多かったのは注目される。

二人の審判員は主審、副審という区別がなく、一人は中盤（ハーフライン附近）に、一人は守勢側のゴール後（これまでのゴールジャッジの位置）につき、試合の展開によって〃ピストン〃されるわけだ。主審制よりも走る範囲が広くなり、体力が要ることと、これまで以上に判定解釈の統一が強調されてくるのだが、前方と後方に審判がいるためゴールエリア周辺のプレーに対する判定が厳格になるなどプラス面はたしかに多い。この大会では二人の審判員が正反対のジャッジをするケースはなかったが、「その場合、どう処置するかということと、審判人口の増大が課題」（安藤日本協会審判部長）といえそうだ。

女子25分ハーフ

準決勝以降に実施された。体力のある実業団、学生各2チームが該当したため試合後、特に疲労を訴える選手はいなかった。

「実業団の場合、5分延長はこたえない。策戦も変わることはないでしょう」（池田三菱鉛筆監督）、「いつも3時間ぐらい休みなしの練習をしているし男子との練習試合をする時もあるのですから心配していません」（早川大崎電気主将）という言葉がそれを裏書きしている。

しかし「クラブチームは苦しいだろうし、特にこれまで以上に基礎体力の勝負となろう」（荒川日本協会理事長）とみられ、全面的に採用される来年4月以降に、いろいろな課題と反響がおきて来そうだ。

当分の間は、ドクターの配置なり救急準備を万全にすべきではなかろうか。（杉）

玖珠 11−3 大分商
大分東 8−3 青山
大分商 11−8 国東農
大分東 11−3 玖珠
青山 8−2 国東農
大分東 12−6 大分商
玖珠 16−3 国東農
青山 8−4 大分商
【順位】①大分東②青山③玖珠④大分商⑤国東農

高崎女、前橋女が接戦

群馬県高校新人戦決勝は11月5日前橋で行なわれ、男子は桐生工が16−13で桐生を、女子は高崎市女が接戦の末、前橋市女を7−6で破り優勝した。

古川、涌谷が勝つ

▼宮城県高校新人大会（11月・宮二女）
▽男子準決勝
仙台一 9−8 仙台商
古川 15−6 仙台
▽同決勝
古川 9（4−0、5−4）4 仙台一
▽女子準決勝
涌谷 8−7 古川女
宮三女 6−2 宮二女
▽同決勝
涌谷 13（7−3、6−5）8 宮三女

広に三原工迫る

▼広島県高校新人大会（11月・廿日市高）
▽男子決勝リーグ
広 15−12 三津田
三原工 9−8 三津田
三原工 15−5 修道
修道 11−10 三津田
広 11−6 修道
広 6−5 三原工
【順位】①広②三原工③修道④三津田
▽女子準決勝
山陽女 21−1 宮原
進徳 7−0 松本女
▽同決勝
山陽女 5−1 進徳
▽3位決定戦
松本 9−3 宮原

年毎にレベル向上
山口の中学大会男子

各地の中学校ハンドボールはシーズン毎に加盟校も増加し、そのレベルが向上しているが、このほど行われた第20回山口県中学校体育大会ハンドボール競技（10月山口大）も男子16校、女子4校が出場、盛会だった。

▽男子準決勝
通津（岩国） 11−7 吉見（下関）
岐陽（徳山） 11−5 岩国（岩国）
▽同決勝
通津 12（8−2、4−5）7 岐陽
▽女子準決勝
柱島（岩国） 13−10 住吉（徳山）
天尾（岩国） 14−11 太華（徳山）
▽同決勝
天尾 12（7−4、5−5）9 柱島

一般男は日進商会

▼神奈川秋季選手権（11月・横浜）
▽一般男子準決勝
神奈川教員ク 14−13 翠嵐ク
日進商会 9−7 三春台ク
▽同決勝
日進商会 26（10−5、16−11）16 神奈川教員ク
▽高校男子決勝
横浜商 20（7−11、13−7）18 横浜商工
▽高校女子決勝
江南 1（0−0、1−0）0 市立川崎
▼東海学生1・2部入れ替え戦（11月18日・名古屋）
中部工大（2部） 23（11−8、12−8）16 岐阜大（1部）
中部工大は1部へ昇格

編集部からのお願い

本誌では日本ハンドボール界の健全な発展のために、読者各位からの積極的な寄稿を歓迎いたします。技術リポート、研究論文をはじめ建設的なご意見などを編集部までお寄せ下さい。
〆切日は特に設けません。

▽研究論文・技術リポート
四千五百字以内原稿用紙使用のこと。
但し未発表のものに限る。

▽球界明日への提言
二千字以内原稿用紙使用のこと。
以上は原稿末尾に住所、氏名、勤務先を明記のこと。

▽各地の記録
用紙自由、大会名、大会日、会場明記のこと。
原稿末尾に大会主管団体名を必ず記入のこと。

▽地方協会告知板
用紙自由。

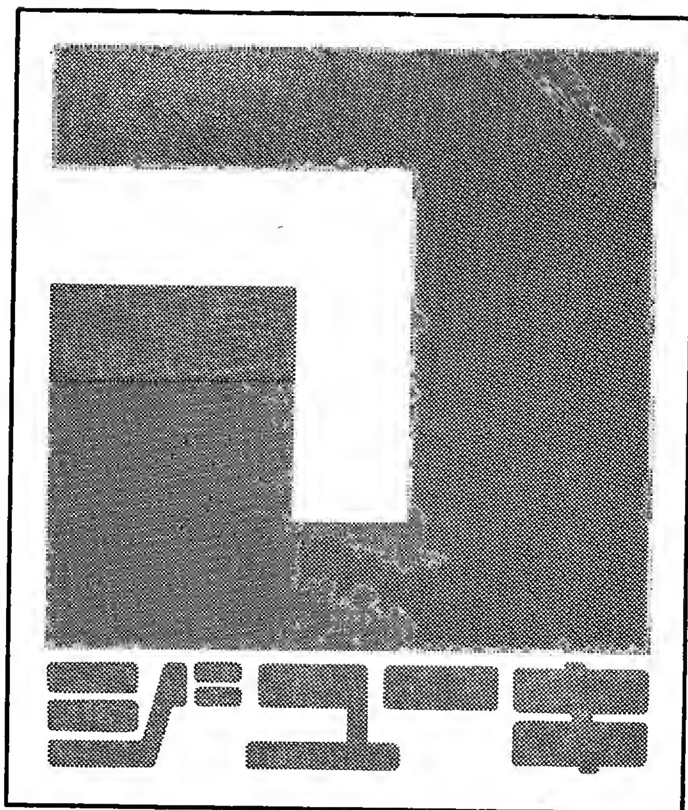
●原稿のあて先は
東京都渋谷区神南町25
日本ハンドボール協会編集部

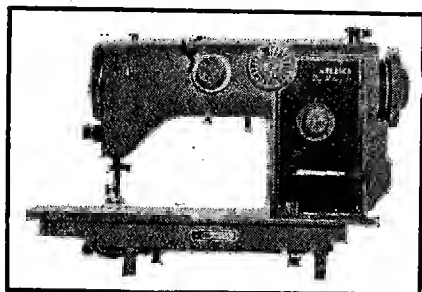
●いったん提出された原稿はお返しいたしません。
●「各地の記録」と「地会協会告知板」は原文を短くする場合があります。御了承下さい。

編集後記

国体・王座と大きな秋の行事もすべて終り、協会の大きな行事は今月の全日本選抜と2月の実業団を残すだけとなりました。
今月は〝協会事始〟の頃の思い出を松本先生に書いていただいた。来年の二月は協会の誕生三十年に当る。その意味も含め3回にわたつて連載させていただくことにしました。
例年の十大ニュースは、年度制重視のため、42年度終了の3月にすることにします。
1月号は休刊とし、2月1日には、先にも触れたように三十周年記念特別号をお手許に届けます。丁度本誌50号にも当りますので、増大号にする予定で、すでに編集にとりかかっています。多くの方々に原稿をお願いし、内容豊かなものにするつもりです。
本誌もおかげで次号は50号、いろいろなことがありましたがこれからもよりよいハンドボール界を作るために、いささかでも努力していきたいと考えています。多くの皆様の投稿をぜひともお願いしたいと思っています。学園だより、ここちよつと休みましたが、三月からまた掲載していきます。現在よせていただいた学校はお待ち下さい。
（TF）

ミシンはマークで お選び下さい





*HZD－956*型
ダイカスト・フルオートジグザグ

東京重機工業株式会社

本社工場 東京都調布市国領町8丁目2番地ノ1電話（480）1111番（大代表）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール 第四十九号
昭和四十年六月一日 第三種郵便物認可 昭和四十二年十一月二十五日印刷 昭和四十二年十二月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会 東京都渋谷区神南町一二五 電話 大代表(467)三一二一 振替東京五八三四八番
編集兼発行人 鈴木達雄
定価 百五十円